



University of Tsukuba Library

Annual Report

2017



筑波大学附属図書館
年報
2017
年度

目次

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY
ANNUAL REPORT 2017

17

C O N T E N T S



1	1 館長挨拶
2	2 トレンド オープンサイエンス 1) オープンサイエンスを支える新しい学術情報基盤 2) JPCOAR とオープンサイエンス
4	3 フォーカス (2017 年度の特徴的な活動・事業) 1) 2019 年度以降の電子ジャーナル等整備方針の決定 2) つくばリポジトリ～オープンアクセス方針採択によるコンテンツの充実 3) 利用者サービス向上の取り組み 4) 2017 年度筑波大学附属図書館特別展「江戸の遊び心 一歌川国貞の描く源氏物語の世界」 5) クラウドファンディングプロジェクト成立を受けて 6) 「全国大学ビブリオバトル 2017」予選会を開催 7) 筑波大学出版会 10 周年記念行事
11	4 資料紹介 都道府県統計書データベース
12	5 職員の活動 1) IDCC2018 参加報告 2) 大学図書館研究編集委員会 オープンアクセス化にあたって 3) 論文発表・研修における講師等 4) 職員研修会
16	6 トピックス 1) サービス・活動 2) イベント・セミナー・授業 3) 展示 4) 見学・来訪者 5) オリエンテーション・講習会 6) 研修・シンポジウム 7) 会議 8) 研究開発室
21	7 メディアにみる附属図書館 1) 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事 2) 筑波大学附属図書館の刊行物 3) 筑波大学出版会の刊行物 4) 出版・放映・web 上に掲載された所蔵・公開資料
23	8 附属図書館ボランティアの活動
24	9 組織図・歴代図書館長
25	10 統計

表紙写真

上：体芸図書館「ユーリカ」
学生による写真作品 "Languorous Summer" 展示風景
下：中央図書館前の広場 新学期の賑わい

裏表紙写真

上：図書館情報学図書館メディアミュージアム 展示入り口の装飾
体育・芸術図書館 建物裏のソメイヨシノ
中：医学図書館 夏の貸出用オリジナルうちわ
オープンアクセスのアイコンをアピールするがまじゅんばー
大塚図書館のある東京キャンパス文京校舎の風景
下：医学図書館 秋の装いの自動貸出機
中央図書館 入口前の雪かきをする職員
中央図書館 メインカウンターに飾られたクリスマスツリー

館長挨拶

中央図書館 エントランス



副学長(学術情報担当)・附属図書館長

西川 博昭

オープン化・情報化と大学図書館

最近問題となっている電子ジャーナルなどの高騰に対処すべく、オープンアクセスの実現が盛んに議論されています。オープンアクセスとは、「査読済み論文が、インターネット上で自由に入手でき、その際、いかなる利用者に対しても、論文の閲覧、ダウンロード、コピー、配付、印刷、検索、全文へのリンク付け、検索ロボットによる索引付け、データとしてソフトウェアに転送すること、その他、合法的な用途で利用することを財政的、法的、技術的な障壁なしで許可すること」と定義されています。

オープンアクセスについては、リポジトリのコンテンツの充実を中心に、大学図書館の業務の一つとして引き続き取り組みが行われています。筑波大学でも、2015年に「筑波大学オープンアクセス方針」を学長裁定し、学術雑誌に掲載された教員の研究成果をつくらリポジトリによって公開することを進めています。まだまだ不十分ではありますが、大学図書館が学術情報流通の主たる役割を担い、研究者の成果を広く世の中に発信するための重要な制度です。「筑波大学オープンアクセス方針」の策定により、図書館はリポジトリに登録可能な論文を調査し、可能なものは登録できるようになりました。事実、情報発信への寄与が期待されるつくらリポジトリは12周年を迎え、総コンテンツ数は順調に増加して、約45,000件になりました。これらの取り組みにより、つくらリポジトリにおける学術雑誌掲載論文の占める割合は20%となっており、国内の機関リポジトリのメタデータを収集しコンテンツの分析を行っているIRDB (Institutional Repositories DataBase) における13.6% (2018年3月31日現在) を大きく上回る数値を示すにいたっております。

このように、著者が機関リポジトリ等に自身の研究成果を公開するグリーンオープンアクセスを進める中で、2017年度は、2019年度以降の電子ジャーナル等の整備方針を策定する年でもありました。近年は、国立大学でも電子ジャーナル購読経費の確保が難しくなっており、国立大学図書館協会のシンポジウム「電子ジャーナル購読をめぐる課題—サステナブルな学術情報流通のために—」(2017年12月21日開催)においても、各大学の厳しい財政状況を受け、パッケージ契約の中止が及ぼす影響についての事例報告がなされており、真剣な意見交換などが行われている現状にあります。

本学では、研究大学として、電子ジャーナルなどの重要性を認め

る学長を始め執行部の判断もあり、2019年から2021年の3年間にについては、引き続き現在の購読枠を維持するだけに留まらず、新たに電子ジャーナル2パッケージおよび1データベースを整備対象に加えて、学術情報提供のさらなる充実をはかることができました。また、「公的研究資金を用いた研究成果(論文、生成された研究データ等)について、科学界はもとより産業界及び社会一般から広く容易なアクセス・利用を可能にし、知の創出に新たな道を開くとともに、効果的に科学技術研究を推進することでイノベーションの創出につなげることを目指した新たなサイエンスの進め方を意味する」オープンサイエンスが提唱されています。本学では2017年度に、「オープンサイエンス推進に向けた検討タスクフォース」を研究担当副学長、学術情報担当副学長の下に設置し、「オープンアクセス方針実施要領」を作成し、その運用をより一層強化する方策を検討しました。

筑波大学附属図書館が、未来想像・創造大学図書館を標榜する限り、オープンアクセス・オープンサイエンスを推進している情報化の流れを考慮せざるを得ません。情報化は、今後ますます急速に進行するとされています。Big Data時代と呼ばれる現在、一年間に地球上で生成・蓄積されるデータ量は既にゼタ(10²¹)バイトを超えており、コンピュータシステムの黎明期に処理対象としていた数キロバイトのデータ量と比較すると、いわゆる分子の直径と太陽系の惑星の軌道の直径程度の違いがあります。また、最近では、AIが人間の能力を超え、テクノロジーが急速に変化して、人間の生活が後戻りできないほどに変容してしまう技術的特異点に到達するとする未来予測がなされ、AIによる支配や失業が心配されております。このような情報化の流れが、過去半世紀と同様のペースで進行すると仮定すれば、情報化によって、どのような社会が生まれるかの予見は容易でなく、ある意味、我々は、「歴史に学ぶことができない時代」に足を踏み入れているのかも知れません。このような現代では、図書館の未来を明るいものとして切り拓いていくために、真にチャレンジ精神を持つ職員の輩出が望まれているのではないのでしょうか。

筑波大学附属図書館は、未来想像・創造大学図書館をめざしチャレンジして参りますので、なお一層のご指導・ご鞭撻・ご支援の程を、お願い申し上げます。

(2018年3月31日)

1. オープンサイエンスを支える新しい学術情報基盤

1. オープンアクセスからオープンサイエンスへ

第5期科学技術基本計画(2016)や文部科学省科学技術・学術審議会学術分科学術情報委員会「学術情報のオープン化の推進について」(2016年2月)などで、論文の公開(オープンアクセス)から研究データを含めた「オープンサイエンス」が大きなトピックとなっています。

研究データを、研究の実施段階から終了後に至るまで、利活用可能な状態で適切に管理すること、研究公正の観点からも研究データを長期的に保存し、永続識別子の付与や、利用ルールの明示等により流通を促すとともに、研究データの被引用をデータ作成者の業績として評価することなどが指摘されています。

また、論文のエビデンスデータとして研究データの公開を求められることが増えていますが、その公開先として我が国のデータベース等がプラットフォームの役割を果たしていく必要があることも指摘されています。

2. オープンサイエンス研究データ基盤の整備

国立情報学研究所(NII)では、これらの課題に対応するため、2017年4月にオープンサイエンス基盤研究センターを設立し、クラウド上で共同利用できる研究データ基盤の整備を開始しました。

研究データ基盤は、学術研究活動の過程で生成される研究データや関連の資料を、研究のライフサイクルに合わせて、管理・公開・検索するための情報インフラで、次の3つのシステムから構成されます。

- ① 研究者が簡便な手順で研究データをクラウド上のストレージに保存できるようにするための研究データ管理基盤
- ② 各大学が保存した研究データのうち、研究者が公開すると判断した研究データや関連する資料を公開するための研究データ公開基盤
- ③ 研究データ公開基盤や分野別データベースなどに登録された研究データを横断的に検索できる研究データ検索基盤

研究データ管理基盤(GakuNin RDM)は、NIIとして新しく提供するサービスです。研究を実施する過程において、研究データ管理基盤にプロジェクトを立て、研究者個人あるいは共同研究者間で研究データや関連する資料を管理・共有します。ファイルのバージョン管理やグループ内のアクセス制御に加えて、研究公正への対応として研究証跡を記録する機能や、研究データを長期保存する機能があります。

研究データ公開基盤は、既に文献を中心としたクラウドサー

ビスのリポジトリとして提供されているJAIRO Cloudを研究データにも対応できるように開発しています。

また研究データ検索基盤は、論文・図書・学位論文の検索システムであるCiNiiを、学術論文や図書、研究データなどの研究成果、それら成果を生み出した研究者、研究プロジェクトの情報などを包括する大規模学術ナレッジグラフを核とする、研究者のニーズに合わせた多様な発見手段を提供する次世代検索サービスとして開発を進めています。

3. 図書館(員)の責務

研究データの公開・共有を進め、その利活用を推進していくには、データの利活用等に精通した人材が重要な役割を担うこととなりますが、専門的な技能を持つ支援人材の育成・確保が課題となっています。

大学図書館は、これまで多様な学術情報資源を自由に使えるように組織化し保存し提供してきました。そして研究データについても、これらの経験を活かして、データを組織化し流通し保存する役割を期待されています。

NIIでは、図書館職員を中心とした人材育成の一つとして、オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)が公開したRDMトレーニングツール(<http://id.nii.ac.jp/1458/00000023/>)を、2017年11月にJM00Cのオンライン教材として公開しました。この講座には、2,300名を超す受講者が登録、500名以上が修了し、MOOCの修了率は世界的に10%台であるなか、24%を超す非常に高い修了率でした。JM00Cでの公開は2018年1月に終了しましたが、現在はNIIのサイト(<http://www.nii.ac.jp/service/jmooc/rdm/>)で公開しているので、ぜひご覧ください。2019年度にはさらに修正を加えたものを公開するなど、人材育成の面でも継続的に支援していく予定です。

オープンサイエンスの進展に大学図書館はどのように寄与できるでしょうか。オープンサイエンス時代の研究環境としては、先述の3つの基盤がばらばらに存在するのではなく、有機的につながることが必要です。それには、図書や電子ジャーナルといった既存の知識基盤とのつながりも踏まえて、図書館(員)が積極的な役割を果たす必要があります。

NIIでは、3つの基盤を、2020年度以降に予定されている本格運用に向けて、実証実験や試行運用を進めていく予定です。国際的な連携のもとでの開発体制の構築も順調に進んでおり、オープンサイエンスへの対応を、基盤の立場から世界最先端の環境に推し進めていきますので、ご協力をお願いいたします。

(国立情報学研究所学術基盤推進部 小野 亘)

2. JPCOARとオープンサイエンス

1. JPCOARの活動

オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)は、リポジトリを通じた知の発信システムの構築を推進し、リポジトリコミュニティの強化と我が国のオープンアクセス並びにオープンサイエンスに資するため、2016年7月に設立されました。2013年度に、国立情報学研究所と国公立大学図書館協力委員会との連携・協力推進会議の下に設けられた機関リポジトリ推進委員会が母体ですが、JPCOARとなり、2017年度末には会員機関も543機関と増え、国立情報学研究所とのJAIR Cloud共同運営やオープンサイエンスを含む学術情報流通の改善など、その活動の範囲を広げています。

JPCOARの活動は、大きく次の3つに分けられます。

- オープンアクセス基盤を安定的に運用すること。
- オープンアクセスの先端機能の開発を進めること。
- オープンアクセスの発展に寄与するために国際連携を進めること。

これらを3つの作業部会(①JAIR Cloud運用作業部会、②研修作業部会、③広報普及作業部会)と4つのタスクフォース(①研究データタスクフォース、②研究者情報連携タスクフォース、③OA方針成果普及タスクフォース、④メタデータ普及タスクフォース)を設けて進めています。主に作業部会がOA基盤の安定的運用をはかり、タスクフォースが先端機能の開発、国際連携の推進を担当しています。

オープンアクセス推進に向けての取り組みとしては、2017年度には、国際的な動向・技術の進展にあわせてjunii2を改訂し、オープンサイエンスに対応する要素の拡充や識別子の拡充、メタデータ構造の修正などを行い、JPCOARスキーマとして策定しました。また、研究データマネジメント(RDM)トレーニングツールを公開し、これをもとに国立情報学研究所が行ったJMOOCでのオンライン講座開設にも協力しています。

2. 次世代リポジトリ

JPCOARの中長期計画の検討は、2018年度の課題となっていますが、それは当然ながら、これからのリポジトリのあり方を想定したものとなります。NIIとJPCOARが協力して、次期JAIR Cloudを検討するタスクフォースは2017年度から既に始まっています。これからのリポジトリのあり方については、Confederation of Open Access Repositories (COAR)のNext Generation Repositories Working Groupから“Next Generation Repositories : Behaviours and

Technical Recommendations of the COAR / Next Generation Repositories Working Group”というレポートが2017年11月に出されています。その中で、リポジトリのプラットフォームは、GoogleやSNSなどに比べて、未だに20年前に設計されたテクノロジーとプロトコルが使われているとされ、次世代リポジトリの特徴としては次のものが挙げられています。

- 出版された論文、プレプリント、データセット、ワーキングペーパー、画像、ソフトウェアなど、幅広いリソースへのアクセスを管理し、提供する。
- リソースを中心としたものである。
- ネットワークリポジトリである。
- 機械フレンドリーである。
- アクティブで、バージョン管理、コメント、更新、およびリソース間のリンクをサポートする。

また、次世代リポジトリが行うべきものとして、

- 識別子の公開
- リソースレベルでのライセンスの宣言
- ナビゲーションによる発見
- リソースの相互連携(注釈、解説、レビュー)
- バッチディスカバリー

など11の項目が提示されています。

JPCOARにおける検討はこれからですが、リポジトリを中心としたオープンアクセスを推進するためにも、また、オープンサイエンスへ対応していくためにも、次世代リポジトリのビジョンが重要となっています。

3. 筑波大学とJPCOAR

JPCOARの運営やその活動は、本学のような会員機関からの、人的リソースとしての協力と会費収入によって行われています。筑波大学附属図書館は、JPCOARには機関リポジトリ推進委員会の時代から参加し、2017年度は、運営委員及び事務局への職員出向により協会の運営に協力しています。さらに、作業部会へも部会員を出し協会の活動にも参加しました。

附属図書館は、早くからリポジトリを公開し、学協会の著作権ポリシーデータベースであるSCPJ(Society Copyright Policies in Japan)を構築、運営するなど、リポジトリコミュニティでの役割も果たしてきました。オープンアクセスを推進し、さらに、オープンサイエンスの推進を支援するためにも、これからもその役割を果たしていきたいと思っています。

(学術情報部長 岡部 幸祐)

1. 2019年度以降の電子ジャーナル等整備方針の決定

本学では、学生・教職員の研究・教育活動に不可欠な電子ジャーナルやデータベースの整備のために、2009年に全学的な整備方針を定め、学内コンセンサスを形成してきました。

第3期となる2016年度から2018年度までの3年間は、2014年度策定の「平成28年度以降の筑波大学における電子ジャーナル等の整備方針」に基づき、対象資料を全学経費により購入しています。今年度は、これに続く第4期の2019年度から2021年度の方針を決定しました。

1. センター・系への調査

見直しにあたり、2016年12月～2017年2月に1回目のアンケート調査を系・センターに対して実施しました。このアンケートでは、整備中の資料の必要性とともに、新たに全学的に整備すべき資料についての要望も収集しました。これを受け、本学の教育研究に真に必要な資料の選定や経費負担のあり方を詳細に検討するため、2017年7月～9月に2回目のアンケートを実施しました。

第2回のアンケートでは、整備中の全資料と新たに要望のあった資料の価格や利用状況を示した上で、①教育研究に不可欠か、②全学共通経費で支出するのに相応しいか、③一部の資料に受益者負担制を取り入れるべきか等を調査しました。

2. 整備方針の策定

アンケートの結果から、受益者負担制の導入については学内の意見の統一は難しいことが判明し、新整備方針でも現状通り全学経費で財源を賄うこととしました。ただし、現状の枠組みを無条件に維持し続けるのではなく、大学の財政とのバランスをしっかりとることを示すために、「施行後の大学の間接経費の獲得状況を踏まえて、必要に応じ見直すことがある」旨を付記することとなりました。

3. 整備対象資料の決定

整備対象資料については、アンケート結果や利用状況等を検討し、現在購入中の電子ジャーナル等は全て継続としました。

その上で、資料の更なる充実を望む声に応えるべく、新たな整備対象資料を加える方針としました。附属図書館収書専門委員会での議論を踏まえ、部局での購入実績やアンケートの回答数を考慮の上、慎重審議し、American Chemical SocietyとIEEE CSDLの電子ジャーナル・パッケージ、聞蔵II ビジュアル

(朝日新聞データベース)の3点を追加する案をつくりました。

以上の整備方針・整備対象資料案は、2018年1月11日の運営会議で決定され、学内へ周知されました。

4. 今後の電子ジャーナル等整備

電子ジャーナルの継続的な購読価格の増大が大学財政に与える問題は世界的に認識されています。我が国では為替動向や消費税課税の影響も加わり、契約資料の削減を余儀なくされている大学も多々あります。このような中、本学が全学的な整備方針として電子資料環境の今後3年間維持、加えて整備対象資料の拡大を決定したことは、教育研究環境の整備に対する本学の強い姿勢を示したものとと言えます。とはいえ、経費抑制を念頭に、各系等からのご協力を得ながら契約資料の費用対効果等を絶えず評価し、フィードバックすることが不可欠です。

同時に、電子ジャーナル問題については一大学を超え大学間連携による対抗策が必要となります。我が国には500機関以上が参加している大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)があり、出版社との価格交渉を先導し、一定の成果をあげています。本学もこの一員として交渉力強化と我が国全体の学術情報環境の維持に貢献する責務を担っています。

また、学術情報流通の新たな流れを構築するためにオープンアクセスの推進も重要です。海外では、購読に代えて、論文のオープンアクセス化に費用を振り向けようとする動きもあります。世界の動向にも注目しつつ、本学の教育研究環境の維持・向上に向け、今後とも取り組んでいきたいと存じます。



(情報企画課長 奥村 小百合)

2. つくばリポジトリ～オープンアクセス方針採択によるコンテンツの充実

1. 「筑波大学オープンアクセス方針」採択

筑波大学は2006年3月に機関リポジトリ「つくばリポジトリ」を公開しました。また、国内外の動向をふまえ、学内の教育研究成果を網羅的に収集・発信し、本学の認知度を向上させつつ、社会貢献及び学術研究の発展に寄与することを目的として、2015年11月19日に「筑波大学オープンアクセス方針」を採択しました。

ここでは「出版社、学会、学内部局等(以下「出版者」という。))が発行した学術雑誌に掲載された教員の成果物を、筑波大学学術機関リポジトリ(以下「つくばリポジトリ」という。))によって公開する。」と明記しています。

2. コンテンツの充実

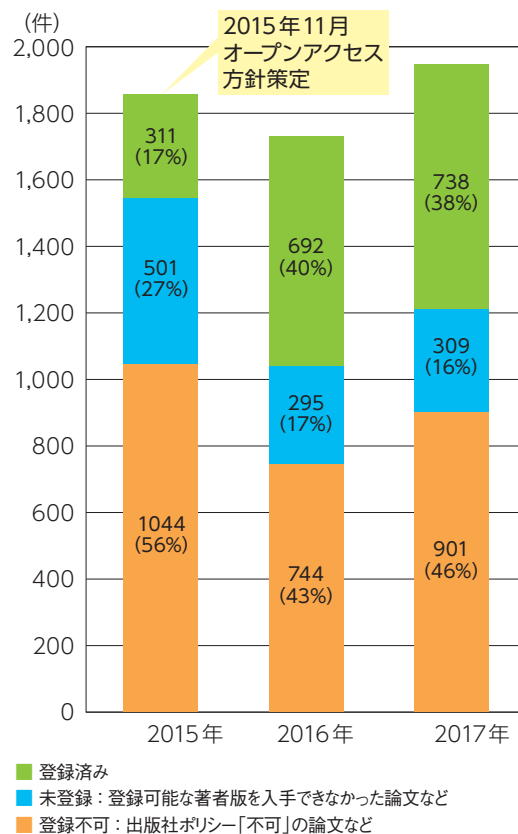
方針の採択以前は、図書館は学術雑誌掲載論文に掲載されている論文について、掲載誌の許諾条件などを調査し、登録が可能なものについて研究者に登録の可否を確認していました。しかし、なかなか回答がいただけず登録可能であっても登録できない論文が多数ありました。

方針の採択以後、学術雑誌掲載論文の内、出版社の許諾条件が「出版社版が登録可能」なものについては、研究者への事前の確認なしに登録ができるようになり、学術雑誌掲載論文の登録数は311件(2015年)から692件(2016年)、738件(2017年)へと増加しました。方針によって、多くの論文が速やかに「つくばリポジトリ」で公開できるようになりました。

「学内刊行紀要」においても、今年度19誌の新規登録があり、登録数は149誌になりました。この中には創刊号から遡って登録依頼があったものもあります。また、10月から16部局(59誌)に刊行状況について調査を開始し、登録可能5誌、登録検討17誌、登録不可10誌の回答を得ました。登録不可の10誌は個人情報を含むなどの理由で登録できないものです。登録中の紀要の中でデータの提供が停止していたものについても提供依頼を行い、順次登録を行っています。学内刊行紀要の登録論文件数は653件(2016年)から2,139件(2017年)へと飛躍的に増加しました。

全収録数についても2018年3月現在、収録コンテンツ数は45,096件となりました。

オープンアクセス方針策定前後の学術雑誌掲載論文の登録状況推移



3. 今後の課題

登録可能な著者最終稿の提供や共著者の許諾などについては、依然として研究者の協力が必要となります。また、「学内刊行紀要」については刊行元の理解が必須となります。オープンアクセス方針をより深くご理解いただくために方針の解説をまとめた「筑波大学オープンアクセス方針実施要領」を作成し、2018年2月23日に附属図書館運営委員会によって決定しました。研究者や刊行元の理解と協力を得て、よりいっそうのコンテンツ充実を目指します。

(リポジトリ係長 佐藤 まみ子)

3.利用者サービス向上の取り組み

附属図書館は、「開かれた大学」を開学の理念とする筑波大学の図書館として、学術情報の他、学習・教育の基盤となる資料、施設・設備及び支援サービスを広く提供してきました。

この数年はアクティブ・ラーニングを意識し、オープンな学習空間として、中央図書館「ラーニング・スクエア」や体育・芸術図書館「ユーリカ!」などの施設整備を進めてきました。また「学生サポートデスク」の設置や各種講習会、セミナー等のソフト面の充実もはかってきており、年報等でも紹介してきました。

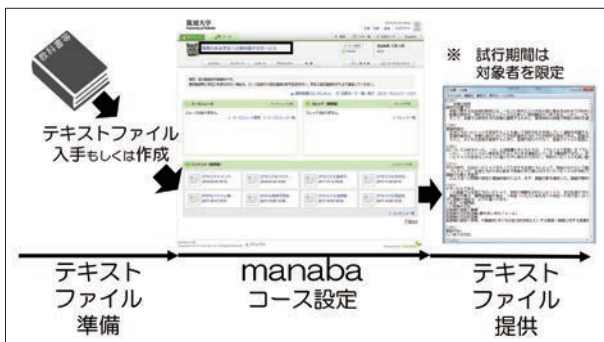
現在は、さらなる学習空間の機能強化に向けた検討を開始していますが、今回は学習空間とは別の観点からすすめてきた利用者サービスの取り組みを紹介します。

1. 障害のある利用者への資料電子化サービスの試行

附属図書館ではDACセンターアクセシビリティ部門と共同で、「障害のある利用者への資料電子化サービス」の試行を2017年4月に開始しました。

2013年6月に制定された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(いわゆる「障害者差別解消法」)では、障害者に対する「合理的配慮の提供」が求められており、筑波大学でも障害学生支援に関する憲章¹⁾を定め、具体的な対応要領²⁾を公開しています。

それらを受けて、本試行サービスでは、視覚に障害を持つ方、運動機能に障害を持つ方(紙ページめくりが困難なケース等)を対象に、教科書等資料のPDFやテキストデータを提供するサービスを開始しました。



テキストデータの提供フロー

附属図書館では、出版社にデータの提供を依頼しデータを取得するか、もしくはピアチューターとの共同作業で教科書等をスキャンし、OCR処理と校正を行い、PDFやテキストデータを作成します。このデータは著作権法第37条³⁾に認められる範囲内

で、筑波大学学習管理システムmanabaを通して提供します。

2017年度は、試行として対象者を限定したこともあり、提供はテキストデータ9件、PDFデータ5件にとどまりましたが、2018年度はサービスの本実施に向けて、対象者の拡大と提供までの期間短縮をはかります。

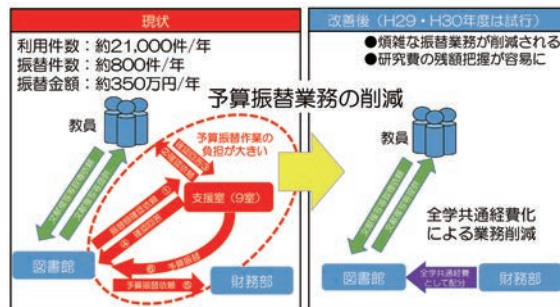


アクセシビリティ部門のピアチューターとの打ち合わせ

2. 相互利用サービス等の全学共通経費化の試行

附属図書館では財務部と連携し、相互利用サービス等の全学共通経費化の試行を2017年11月に開始しました。

相互利用サービスでは、筑波大学未所蔵の文献について、利用者からの文献入手リクエストを受けて国内外の所蔵図書館を調べ、文献の複写取寄せもしくは文献そのものを借り、利用者へ提供します。費用として複写料、郵送料等が発生しますが、校費で利用した場合には予算振替処理が発生し、その作業は附属図書館ばかりでなく、財務部、支援室等でも膨大なものとなっていました。一方で電子ジャーナルの普及により研究者が直接アクセスできるコンテンツが急増したため、特に文献取寄せは急激に減少しています。また紙冊子の雑誌では、研究者がそれぞれの予算で必要な雑誌を購入することも多くありましたが、電子ジャーナルではパッケージを大学共通経費で購入する



予算振替フロー

ことが多く、文献入手の費用の受益者負担から共通経費負担へのシフトが進んできています。

今回の試行では、各教員の個々の予算で負担するかわりに、全学共通経費による予算で費用を負担し、予算振替処理を削減するものです。集計業務及び予算振替業務が不要となり、関連事務組織の業務改善につながるほか、教員研究費の残額把握がしやすくなります。2018年度までを試行とし、その結果を検証の上、2019年度以降の本実施の判断を行う予定です。

3. 附属学校等との高大連携支援事業

附属図書館では、高大連携事業の一環として、附属学校向けに大学・大学院レベルの学術情報提供の可能性について検討しています。

まず最先端の研究論文情報の提供として、2016年度に国際的に定評のある学術文献データベース「Web of Science」への附属高校からのアクセス環境を整備しました。2017年6月には、東京キャンパスで附属学校教員向けの講習会を開催しました。これは各校での文献検索指導や検索結果分析等での活用をはかるためで、講師はデータベースベンダーに依頼しました。

また附属高校向けの大学図書館図書貸出制度を引き続き運用し、駒場高校へ52冊(更新を含めると121冊)、坂戸高校へ6冊(更新を含めると8冊)の貸出を実施しました(2018年3月31日現在)。

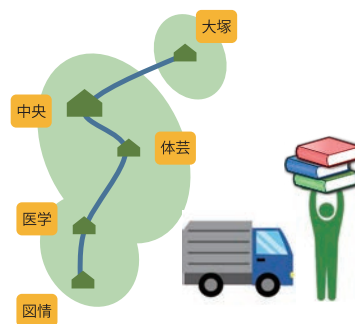


Web of Science 講習会

そのほか、次年度以降のサービス拡充に向けた附属高校・坂戸高校の関係者との意見交換を行いました。

4. 図書館間搬送サービスの開始

筑波キャンパス内の各図書館間での図書の取り寄せサービスを2016年2月から試行し、2017年4月から運用を開始しました。今回のサービスを開始したことにより「筑波大学附属図書館の蔵書は、附属図書館5館のどこからでも取寄せができ、どこにでも返却できる」ようになりました。移動時間や経費の節約につながるこのサービスにより、2017年度は7,162冊の取り寄せが実施されました。



5. 体育・芸術図書館のギャラリー機能

体育・芸術図書館では、昨年度整備したアクティブ・ラーニングスペース「ユーリカ!」で、壁面を使ったアート作品を学生主導で制作しました。また、芸術系と連携し、本学所蔵の「石井コレクション」(近世絵画や近世陶磁器等)の常設展示を開始し、貴重な芸術作品を身近に鑑賞できる空間を整備しました。



マスキングテープを使った壁面アート

(アカデミックサポート課長 三角 太郎)

1) 筑波大学における障害学生支援に関する憲章

<http://www.tsukuba.ac.jp/about/disability.html> (accessed 2018-04-11)

2) 障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領

https://www.tsukuba.ac.jp/public/pdf/shogai_sabetsu_kaisho_1.pdf (accessed 2018-04-11)

3) 著作権法

http://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=345AC0000000048&openerCode=1 (accessed 2018-04-12)

4. 2017年度筑波大学附属図書館特別展 「江戸の遊び心 ―歌川国貞の描く源氏物語の世界―」

1. 特別展概要

2017年度の特別展は、「江戸の遊び心 ―歌川国貞の描く源氏物語の世界―」と題して、10月10日(火)から11月19日(日)まで中央図書館貴重書展示室で開催しました。

今年度は、附属図書館と図書館情報メディア系との共催により開催し、綿抜豊昭教授の企画・立案のもと、附属図書館職員9名のワーキンググループが、附属図書館研究開発室の谷口孝介教授、山澤学准教授のご協力を得て実施しました。

本特別展は、原作である『源氏物語』の世界をふまえながら、歌川国貞の描いた『紫式部源氏かるた』を通して近世的文化を鑑賞できるように趣向を凝らしたものです。展示室では、江戸時代に描かれ『源氏物語』をビジュアル化した「源氏絵」を中心に、本学所蔵の貴重図書『源氏物語』や注釈書、紫式部が描かれた資料などを展示しました。さらに最新のデジタル技術と貴重資料が融合した「浮世絵鑑賞システム」も公開しました。

2. 展示構成

展示は5部構成で、第1部『源氏物語』と出会う』では、小筆笥に収められた『源氏物語』の貴重図書をはじめ、『花鳥餘情』や『湖月抄』などの『源氏物語』注釈書も紹介され、『源氏物語』が読み継がれてきた状況を知ることができました。

第2部『源氏物語』の知識化』では、『源氏物語』の内容が教養として世の中に広まったものとして、『源氏物語』をビジュアル化した「源氏絵」、巻名の由来となった和歌の「源氏引歌」、『源氏物語』の各巻の名をつけた「源氏香」を紹介し、第3部「紫式部像」では、石山寺で『源氏物語』を著したとされる紫式部像をはじめ、さまざまな浮世絵及び書物に描かれている紫式部を紹介しました。

本展示の見どころである第4部「源氏絵の世界」では、歌川国貞『紫式部源氏かるた』、歌川豊国『源氏香の図』、尾形月耕『源氏五十四帖』の作品を比較しながら、絵師たちの個性溢れる浮世絵の世界を紹介しました。

最後の第5部「デジタル技術と資料の融合」では、「浮世絵鑑賞システム」によって、源氏絵から読み解く平安時代の暮らしを体験することができました。

なお、今回の展示資料には、本学所蔵の資料に加え、展示企画者の綿抜教授個人蔵の資料も数多く含まれています。

3. 図録

特別展をより理解していただくために、展示資料の解説を中心とした図録を作成しています。図録執筆は、第1部を吉森佳奈子准教授(人文社会系)、第2～4部を綿抜豊昭教授(図書館情報メディア系)、第5部を時井真紀講師(図書館情報メディア系)にお願いしました。また、今回は芸術専攻の院生によるコラムも寄稿されており、文理にまたがるさまざまな研究領域から、研究成果を公開しています。多様なテーマで開催される特別展の図録は会期終了後にも多くの方々に資料として活用されています。

4. 講演会・ギャラリートーク

特別展会期中の10月28日(土)に、特別展の企画・立案者である綿抜豊昭教授による特別講演会を開催しました。「源氏絵」についての興味深い講演と、展示室でのギャラリートークがあり、『源氏物語』の世界をより身近に感じることが出来ました。

また、学園祭期間中には「浮世絵鑑賞システム」のデモの実施、関連企画としての「古典にふれてみよう!」などが開催されました。本特別展の開催期間はこれまでで最も長い39日間となり、学内外から2,835名が訪れ貴重な資料を観覧しました。



展示室 第4部「源氏絵の世界」展示風景

5. 電子展示

附属図書館特別展は、貴重書展示室で公開する現物展示に加え、附属図書館Webページから電子展示の公開も行っています。

その内容としては、特別展ホームページを作成し、電子版図録や展示資料の紹介を行うほか、Twitterなども活用し展示会場の様子や、日常のホットな話題などを提供しています。

2017年度筑波大学附属図書館特別展については、以下のサイトをご覧ください。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2017genji/index.html>

(情報企画課主幹(特別展WG主査) 大久保 明美)

5. クラウドファンディングプロジェクト成立を受けて

2017年1月26日から2017年3月31日にかけて取り組んだ「筑波大学図書館資料購入プロジェクト」では、多くの皆様から温かなご支援をいただきました。

プロジェクトの成立を受け、2017年4月から7月にかけて資料の選定・購入を行いました。最終的に、附属図書館の選書班メンバーが選定した、新刊学術書、学習・学生支援に役立つ図書428冊と、購入中止を予定していた延べ66タイトルの雑誌・新聞を購入することができました。購入した図書には、ご支援で購入したものであることが分かるように、表紙にオリジナルシールを貼り付けています。2017年6月には、附属図書館全館で、プロジェクトで購入した図書のミニ展示も実施し、展示の前で足を止める多くの学生の姿を目にすることができました。

また、資料の選定・購入と同時進行で、プロジェクトの支援者の皆様に対して、附属図書館Webサイトや館内各所への芳名掲示、見学ツアー・貴重書内覧会への招待、5年間使用できる学外者利用証の発行などのお返しをご用意しました。見学ツアーでは、通常の見学ではお見せしていない『グーテンベルク42行聖書零葉』や『鯨絵』などの貴重書群もご覧いただき、お

楽しみいただきました。

大学図書館では先例の少ない取り組みであったこと、資料費という図書館の根幹を成すテーマでの取り組みであったことにより、開始当初から多くの皆様に注目をいただいた今回のプロジェクトは、今後の大学図書館の可能性を考えた実践例の一つとして、文部科学省「大学図書館における先進的な取組の実践例」(http://www.mext.go.jp/a_menu/kaihatu/jouhou/1341374.htm)に取り上げられたほか、各所で事例報告をしております。プロジェクトを通して、大学図書館の現状を多くの方に知っていただいたこと、今後の大学図書館の可能性を考えることができたことは、私たちにとても大きな収穫でした。これを踏まえ、今後も私たちは様々な可能性を探り、挑戦を行っていきたいと考えています。

本プロジェクトの詳細については以下の附属図書館Webページで報告をしておりますので、ぜひご覧ください。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/about/cf2017>

(クラウドファンディングプロジェクトチーム)

6. 「全国大学ビブリオバトル2017」予選会を開催

1. 中央図書館が予選会場として初参戦

ビブリオバトルは、本を通じて知識を深め、多くの人と交流を深めることのできる知的書評合戦です。公式ルールがあり、発表者(バトルー)は自分が面白いと思った本を5分間で紹介し、聴衆とのディスカッションを経て、参加者全員で「どの本が一番読みたくなったか」を投票で決めます。近年は高校生の全国大会や大人向けバトルが開かれるなど、多くの人に親しまれているイベントです。2017年は「全国大学ビブリオバトル」で初の茨城県大会が実施されることになり、県内予選会会場として筑波大学(中央図書館)も初参戦することになりました。本学では過去に学生主体のビブリオバトル実施例はありますが、図書館主催による開催は初めてのことでした。

2. “本を語る”楽しさを共有

当日はビブリオバトルに造詣の深い宇陀則彦准教授(図書館情報メディア系)、小野永貴氏(日本大学専任講師・本学OB)、常川真央氏(千葉大学特任助教・本学OB)を司会にお迎えし、その軽妙な掛け合いで会場を大いに盛り上げていただきました。多くの

観客が見守る中、バトルー5名が“大好きな1冊”について熱く語りました。聴衆との質疑応答では、時間いっぱいまで様々な質問が寄せられ、会場全体が“本を語る”楽しさにつつまれました。投票の結果、チャンプ本として伊坂幸太郎著『夜の国のクーバー』(北原光梨さん・知識情報・図書館学類)が選ばれました。その後、北原さんは全国大会まで勝ち進み、参加した127校1,090名の頂点であるファイナリスト6名に選ばれる大健闘でした。



中央図書館チャットフレームで開催(10月17日)

(ラーニングサポート係長 渡邊 朋子)

7. 筑波大学出版会10周年記念行事

筑波大学出版会は、平成19年7月に設立され、今年度で10年という節目を迎えたことを機に、設立時からこれまでの状況を振り返り、今後も筑波大学の研究成果の発信を継続できる出版会であり続けるため、10周年記念行事を実施しました。

1. シンポジウムの開催

9月29日(金)大学会館国際会議室において「筑波大学出版会10周年記念シンポジウム」を開催し、学内関係者及び学生の75人が参加しました。

本学社会学類卒業生で作家、翻訳家／日本ペンクラブ常務理事として活躍する松本侑子氏により「小説家・翻訳家として30年」を演題とする講演会があり、その後、松本氏、永田恭介学長、西川博昭出版会運営委員会委員長による鼎談が行われました。

松本氏の「通説を疑い、徹底的に調査し、小説を書き上げる」という仕事に対する情熱やアプローチの仕方が本学の学生時代に培われたもののお話は、参加者すべてに多くの示唆を与えるものでした。



松本氏、永田学長、西川委員長による鼎談

2. 10周年記念本刊行と出版記念講演会の開催

10周年行事最後の目玉となる山海嘉之先生執筆による『サイバニクスが拓く未来—テクノピアサポートの時代を生きる君たちへ』を3月30日に刊行しました。

山海嘉之先生による初の執筆本には、小学生の時に書いた作文「ゆめ」が現実となり、世界的な科学者となった山海先生から「あるべき姿の未来」が熱く語られています。

そして、3月18日(日)筑波大学東京キャンパス文京校舎134講義室において開催した「山海嘉之先生出版記念講演会」には、中高生を含め156人の方々が参加しました。

講演会の質疑応答での一つ一つの丁寧な回答は、「未来を開拓

する人」が育つことを願う山海先生の思いの表れそのものでした。



山海嘉之先生出版記念講演会

3. 記念誌の発行、ポスター展の開催、記念セール

9月29日に開催したシンポジウムの資料として配布された「10周年記念誌」には、「あゆみ」として、設立時から今日までを刊行書籍とともに振り返り、昨今の出版形態の変化への対応が紹介されるとともに、設立にかかわられた先生方や執筆された先生方から寄せられたメッセージからは、それぞれの先生方の出版会への想いがうかがえます。

そして、9月19日から10月6日に中央図書館ギャラリーゾーンにてポスター展を開催し、刊行書籍案内、出版会の歩み等を皆さんにご覧いただくとともに、シンポジウム開催と10周年記念セールの周知を行いました。

「10周年記念セール」では、学内書籍部のご協力により、10月2日から10月31日と1月15日から2月28日の期間、筑波大学出版会刊行書籍を特別価格で提供しました。



10周年記念誌

(出版会係長 飯塚 桂子)



都道府県統計書データベース

2017年11月末に『都道府県統計書データベース』（明治期）へ附属図書館からアクセスできるようになった。「府県統計書」で検索いただければWikipediaなどのサイトが数多くあるので、ここでは詳細について説明しない。本稿では私の専門分野の視点から、この資料の利活用などについて述べる。

私は、教育水準や健康状態などについて、主に途上国を対象に統計的因果推論の手法を適用して研究している。教育政策や医療政策の影響だけでなく、貧困、紛争、そしてインフラの整備による経済発展からの影響なども評価の対象である。このような研究者なので、お叱りをうけることを懼れずに申し上げるならば、私は明治という時代に興味はない。それでも、私は本データベースを利用した研究プロジェクトをいくつか進めており、その成果は途上国の貧困削減のための政策立案に資するものと信じている。

1. 歴史資料としての都道府県統計書

統計には、実態を知る、予測する、(因果を)推論する、の3つの役割がある。府県統計書は明治政府が各府県の実態を知るために行った代表的な統計調査である。調査項目は多岐にわたり、人口だけでなく、天候、農業、工業、商業、交通、衛生、教育など各地域の様々な情報が収集されている。明治期を専門にする研究者の多くがこの歴史資料にあたるどころから研究を始めると言われている。

アジアにおける類似的統計資料として有名なのは、イギリス領インド帝国の調査やシャム王国（現在のタイ王国）の統計年鑑などである。シャム王国の統計は西をイギリス、東をフランスに植民地支配されている中で自国の領土がどこまでかを示す目的もあったといわれている。府県統計書はシャム王国の年間統計と比べて地域別の情報が詳細に収集されており、宗主国が植民地支配のために収集していた統計にも見劣りしないものである。

2. 歴史統計の利用例とさらなる利活用への願望

明治期の日本の特徴として、植民地支配されておらず、急速に近代化を行ったことが挙げられる。明治維新（1868）直後に、経済活動に大きな影響をもっていた政策としては、商法大意、電信網の整備、廃藩置県、そして、鉄道敷設などがある。経済活動の自由が認められ、地域間での人および情報の移動の制限がなくなり、安定した物流網が整備された。特に、電信網の整備は急速に行われ府県統計書の様式が統一される1883年までには、大都市間の電信網の整備はほとんど完了していたといわれている。この後の1886年ごろから鉄道敷設ブームがやってくる。

この明治期の近代化の様相はいくつかの面において、現在のサ

ブサハラ・アフリカの国々と似ている。例えば物流である。物流にとって重要なのは、情報の非対称性、貿易障壁、そして輸送コストのそれぞれが小さいことである。明治期の日本では、電信網の整備と廃藩置県によって情報の非対称性と貿易障壁が小さくなった。また、天候などの影響を受けやすい水運に鉄道による陸運が取って代わった。サブサハラでも、携帯電話の普及により地域間の情報の非対称性は急速に減少している。また、一応は民主化しており、紛争が起きていなければ貿易障壁も大きくない。ただし、物流のためのインフラは貧弱である。物流が依存する道路は質が悪く、劣化しやすい。そのため、安定した輸送が容易ではない。明治期において鉄道が水運にとってかわった状況を評価することで、新たな物流インフラを途上国に建設した際にどのような影響があるのかを類推するための科学的な証拠になる。

回りくどい類推と思われるかもしれない。私もそう思うのだが、これは要するに質の高いデータが他に無い、というのが主な理由である。一般に途上国の統計の精度は低い。そのため、例えばサブサハラの経済発展を測るためには、衛星で撮影した夜の光の強さといった物理量を用いるほうが有力である。また、データセットは信頼性の高い根拠を導ける構造を必要とする。科学的根拠に基づく意思決定という言葉を目にするようになったが、根拠には信頼性の水準というものがああり、信頼性が一定水準以下の根拠は意思決定の際には用いない。医学では経験豊かなベテランの医師よりも、根拠に従う若手の医師の治療成績の方が良いことが明らかにされている。予算が限られる途上国の政策形成も信頼性の高い根拠によってなされるべきであるという考えがこの類推の背景にある。実際に、経済学では質の高い歴史データを使った研究が盛んに行われるようになってきている。インド帝国の歴史的統計を用いて鉄道敷設の様々な影響を分析しているDave Donaldsonは2017年にジョン・ベイツ・クラーク賞を受賞した。この賞は経済学の分野でノーベル賞と同じくらい栄誉がある。

本データベースへのアクセスが可能となったことは実証分析をする研究者にとって福音である。歴史データと言えばマイクロフィルムから一枚ずつ印刷し、スキャンするのが通常である。さらに、マイクロフィルムを読み取る機械はいつ壊れるかわからず、しかも図書館が開いてなければ使えない。費用は印刷費・機会費用だけで容易に100万円以上かかっていただろう。研究する本人は能施太子のつもりでも、周りから見ればシシュポスのようである。一体何の罰を受けていたのか。。。これがすべて解消されたのだ。歴史データに限らずこの様なデータセットは他にも数多く存在する。デジタル化されたデータへのアクセスがより一層可能になっていくことを願っている。

（システム情報系助教 牛島 光一）

5 職員の活動

1. IDCC2018参加報告

2018年2月19日から22日にかけて、スペイン・バルセロナで開催された"International Digital Curation Conference (以下、IDCC)"に参加をしました。IDCCはイギリスのDigital Curation Centre(DCC)によって毎年開催されている研究データの共有・利活用に関する国際会議で、本年のテーマは"Beyond FAIR - from principles to practice to global join up"でした。

近年、学術論文の根拠となる実験データなどの公開によって、研究活動をより開かれたものとするを旨とするオープンデータ・オープンサイエンスの潮流が世界規模で広がっています。これまで研究の成果物である学術論文のオープン化を機関リポジトリの構築・運用という形で担ってきた大学図書館も、この動きの中で重要な役割を果たす必要があると考えられています。今回IDCCに参加し、オープンデータ・オープンサイエンスに関する諸外国における最新の動向について情報収集を行ってきました。

1. 本会議

本会議は2月20日、21日に開催され、基調講演3本、研究発表3本、パラレルセッションを含む発表27本、デモンストレーション4本、ポスターセッションが行われました。今回はテーマに「from principles to practice」という一節が含まれている通り、諸外国における研究データの利活用に関する実践事例の報告やそれを元にした研究発表が多く為されました。

発表テーマの一例として下記のようなものが挙げられます。

- 蓄積された研究データメタデータの分析
- データ管理に関する人的資源の共有
- DMPツールの動的機械処理
- データポリシー標準化の取り組み

上記の例のような、既に進行している実践とそれに伴うフィードバックを中心とした諸外国の先行事例の報告はいずれの内容も大変興味深く、今後の日本におけるオープンデータ・オープンサイエンスの推進に向けて、非常に大きな知見を得る事が出来ました。

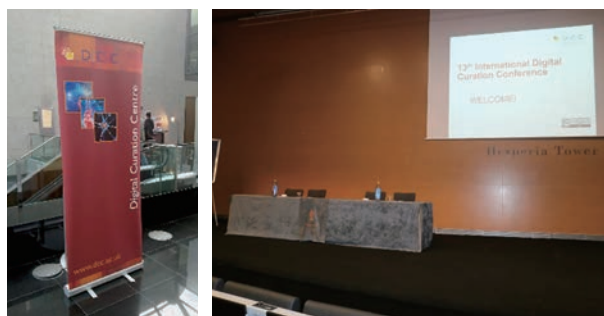
2. ワークショップ

会議初日の2月19日と最終日の22日にはワークショップが開催されました。本項では筆者が参加した22日開催のワークショップ"A Research Data Shared Service in a localised, international context—what could/should it mean for you?"について紹介します。

研究データ共有サービス(Research Data Shared

Service(RDSS))はオープンデータ・オープンサイエンスにおいて最も必要とされるサービスの一つと考えられます。このワークショップではRDSSの構築に際して、国際的にどのようなニーズが存在するのか、どのような利用シーンが想定されるのかを多様なバックグラウンドを持つ参加者同士のディスカッションによって検討しました。

ワークショップを通して明らかになったのは、オープンデータ・オープンサイエンスに関するワークフローにおけるRDSSの位置付けは環境によって非常に多様だという事で、国際的に標準化されたRDSSの構築には非常に多くの要素が必要とされ、その開発はとても難しいものになると考えられます。



IDCC2018会場の様子

3. 会議への参加を通して

国際会議に参加し、オープンデータ・オープンサイエンスという学術情報流通における最新事例についての情報収集を行う中で、会議の主題に限らず多くの知見を得ました。

その中でも印象に残ったのは国際的な協調と国内での議論双方の必要性です。今回の主題に限らず、今日的な学術において、国際的な動向を無視する事は殆ど不可能だと思われます。しかし同時に、どんなトピックにもそれぞれの国やコミュニティに固有の文脈が必ず存在します。諸外国の事例を参考にしつつも、日本において、あるいはそれぞれの学術コミュニティにおいて何が求められているのかを主眼に置いた議論を常に心がける事が、オープンデータやオープンアクセスの実現、そして今後の学術情報流通の進展において重要なのではないのでしょうか。

最後になりましたが、今回会議への参加に際して快く送り出してくださった附属図書館の皆様にご礼申し上げます。

(レファレンス担当 松野 渉)



第1号は1972年発行

2. 大学図書館研究編集委員会 オープンアクセス化にあたって

1. 「大学図書館研究」と編集委員会

国公立大学図書館協力委員会(以下「協力委員会」)が刊行する査読誌「大学図書館研究」は、国公立の大学図書館から委員を選出して組織された編集委員会によって編集され、通常は年に3号が刊行されています。筑波大学附属図書館からも、国立大学図書館協会からの選出という形で長年にわたり委員1名を派遣しています。

編集委員の主な業務は次号以降の企画、原稿依頼、査読などで、年に3回ほど編集委員会を開催するほか、随時メール等により議論を行っています。また「大学図書館研究」の定常的な編集に関わる業務のほかに、筆者が委員を務めた間に大きな変化が2回あり、それに付随した業務が発生しました。本稿は主にその件についての記事です。

最初の大きな変化は、「大学図書館研究」の電子化でした。

2. オープンアクセス前史 - 電子化とOJS

これまで伝統的な紙の冊子で刊行されていた「大学図書館研究」でしたが、1990年代から急速に進んだ学術雑誌の電子ジャーナル化の流れを受けて、その中心である大学図書館の専門誌がいつまでも冊子だけなのはいかがなものか、という意見が多くあり、2010年頃から電子ジャーナル化の模索が始まりました。

その際、既存の商業出版者の電子ジャーナルプラットフォームではなく、オープンソースソフトウェアの電子ジャーナルプラットフォームの活用が検討され、名古屋大学と共同で、OJS (Open Journal Systems) の導入・日本語化について、国立情報学研究所(NII)のCSI事業として採択されました。

OJSは電子ジャーナルの投稿・査読・編集・公開をサポートする統合電子ジャーナルプラットフォームで、編集委員会でも機能を限定しながら1年程度の試用が行われ、エンバゴ期間の過ぎた号の記事についてはOJSをプラットフォームに公開が行われることになりました。エンバゴ期間が設けられた理由は、冊子体としての刊行継続を望む声が主な購読者である各大学図書館からあったことと、冊子の売り上げが協力委員会の重要な収入源であり、冊子の刊行を妨げないための措置でした。

3. オープンアクセス化 - J-STAGE掲載

OJSの試用の結果、編集作業や投稿時のユーザー登録が煩雑であることが判り、「大学図書館研究」ではひとまずOJSを公開用プラットフォームとしてのみ活用することとしました。一方で、オー

プンアクセス(以下「OA」)を推進する大学図書館界の専門誌がOAでないことについての意見も根強く、最終的に協力委員会の財源を別に確保することで、2015年11月6日の協力委員会にて「大学図書館研究」のOA化が決定されました。これが2番目の大きな変化です。

折しも、NII-ELSの終了とJ-STAGEへの移行という動きが始まっており、別途サーバ管理等が必要なOJSからJ-STAGEでの公開を目指すという方向に舵を切ることになりました。

J-STAGEでは、XML形式をアップロードしての公開と、PDFファイルをアップロードしての公開という2パターンがあります。当初はWebでのアクセスしやすさや読みやすさから、HTML形式でも閲覧が可能なXML搭載を目指して情報収集や検討を進めていました。検討チームを結成し、著者に無用の負担をかけずに原稿を執筆してもらいつつ、それをXML形式へ変換する方法を模索しました。「大学図書館研究」の紙面にある要素を洗い出し、それを取捨選択しつつJ-STAGE搭載用XMLの各要素と対応させる作業を行い、その要素を埋め込んだMicrosoft Wordの原稿テンプレートからXMLへの変換を行う仕組みのプロトタイプを業者と共に作成するに至りました。ただ、どうしても図表の扱い等に難があり、最終的にはXML搭載を断念し、Microsoft Wordの原稿テンプレートから従来の「大学図書館研究」の紙面を模したPDFファイルを作成して、それをアップロードするという方式に落ち着きました。

これは著者や編集委員の負担を考え、理想でありつつもチャレンジ部分の多い仕組みよりは、無難ながら作業の容易さとある程度の完成度を見込める方法の方が、継続性などの面で適切であるとの編集委員会の判断によるものです。

この他、バックナンバー掲載記事の著作権調査やアップロード、メタデータ入力作業などの膨大な作業を行いながらJ-STAGEへの移行準備を進め、2018年1月29日に無事にJ-STAGEでの「大学図書館研究」の公開、OA化が実現しました。

移行措置として残されていたOJS版も同2月20日に削除され、短命ではありましたが、「大学図書館研究」の電子化、そしてOA化の模索の成果であり重要な橋渡し役としての役割を終えました。

筆者は、通常2年の任期のところ、諸事情により2010年から2017年3月まで編集委員を務め(その後もJ-STAGE移行作業を分担し)、ほぼOJSと同じ期間、「大学図書館研究」に携わっていました。改めて深い感慨とともに本稿の執筆に当たったことを書き添えておきます。

(デジタルライブラリ係長 嶋田 晋)

5 職員の活動

3. 論文発表・研修における講師等

当館職員の論文執筆や、学外の研修・シンポジウム等における講師・事例発表等の活動記録です。

1. 執筆活動

三角太郎. NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化の実施方針. カレントアウェアネス-E. 2017, no.326, E1920.

[カレントアウェアネス-E](#)

<http://current.ndl.go.jp/e1920>

松野渉. 筑波大学附属図書館クラウドファンディング：あるプロジェクトチームメンバーが考えたこと（特集 東京地域グループから広がる新しいつながり）. 大学の図書館. 2017, vol.36, no.7, p.98-100.

三角太郎. 2020年のNACSIS-CAT：NACSIS-CAT検討作業部会の検討状況（特集 図書館の話題アラカルト）. 図書館雑誌. 2017, vol.111, no.8, p.500-501.

大和田康代, 石津朋之. クラウドファンディングによる資料費獲得への取り組み：図書館員はクラウドファンディングの夢を見るか？（特集 図書館の話題アラカルト）. 図書館雑誌. 2017, vol.111, no.8, p.502-503.

論文要旨：

筑波大学附属図書館では年々縮減する紙媒体資料の購入費確保を目的としたクラウドファンディングプロジェクトを実施した。本稿では実施の背景と経緯を述べた後、実施を通して得られたものを報告することで今後の他機関における検討の一助とされたい。

[つくばリポトリ](#)

<http://hdl.handle.net/2241/00148379>

松原 悠, 斎藤 未夏, 石津 朋之, 大山 貴稔, 佐藤 まみ子, 新村 麻実, 野村 港二. 筑波大学中央図書館ラーニング・コモンズにおける大学院共通科目「ザ・プレゼンテーション」の実施. 大学図書館研究. 2017, no.107

論文要旨：

筑波大学中央図書館のラーニング・コモンズ「ラーニング・スクエア」では、2015年10～12月、オープンなスペースである「グループ学習スペース」において、大学院生対象の授業科目「ザ・プレゼンテーション」を10回にわたり実施した。講師と受講者を対象に調査したところ、ラーニング・スクエアは、開放的で立ち寄りやすいという点が評価されている一方で、周囲の目や音が気になるため授業への集中が妨げられるという側面もあり、活発な議論や発表の場として活用するには課題が存在することが明らかとなった。

[大学図書館研究](#)

<https://doi.org/10.20722/jcul.1703>

2. 講師・事例報告

開催日	氏名	催し名 【テーマ・レジュメ・参考URL】
2017.6.8	三角太郎	学術情報基盤オープンフォーラム2017コンテンツトラック これからの学術情報システムは何を目指すのか：所蔵目録から情報資源の発見とアクセスへ 【テーマ】NACSIS-CATの軽量化・合理化について（実施方針） 【資料】 https://www.nii.ac.jp/csi/openforum2017/track/pdf/20170608AM_Cont_02_misumi.pdf
2017.8.7	三角太郎	LIMEDIO Seminar 2017 【テーマ】NACSIS-CAT検討作業部会の最新の検討状況、そして今後の展開
2017.8.30	松野渉	リサーチ・アドミニストレーター協議会第3回年次大会 【テーマ】筑波大学附属図書館におけるクラウドファンディングプロジェクト：READYFOR社との協働 【資料】 http://hdl.handle.net/2241/00150560
2017.9.11	三角太郎	教育関係共同利用拠点 千葉大学アカデミック・リンク・センター履修証明プログラム 「教育のICT化と教材開発支援」コース 対面実習「アカデミック・リンク 教育・学修支援専門職養成プログラム（ALPS プログラム）」 【テーマ】教材開発支援の実践事例から サービスを進めるためのポイント

開催日	氏 名	催し名 【テーマ・レジュメ・参考URL】
2017.9.13	三角太郎	広島県大学図書館協議会 平成29年度第1回研修会 【テーマ】2020年のNACSIS-CAT/ILL
2017.10.2	三角太郎	これからの学術情報システムに関する意見交換会2017(札幌会場) 【テーマ】NACSIS-CAT/ILLの再構築(軽量化・合理化)について
2017.10.13	岡部幸祐	第103回全国図書館大会 東京大会 【テーマ】JPCOARの目指すオープンアクセス
2017.11.15	天野絵里子、 大園隼彦、 常川真央、 西園由依、 前田翔太、 南山泰之、 三角太郎、 尾城孝一、 山地一禎	gacco オンライン講座「オープンサイエンス時代の研究データ管理」 開講:2017.11.15 受講期間:4週間 【動画】 https://www.nii.ac.jp/service/jmooc/rdm/
2018.3.9	渡邊朋子	平成29年度関東甲信越地区国立大学図書館職員研修会 【テーマ】筑波大学附属図書館におけるラーニング・アドバイザーの取り組み

4.職員研修会

2017年度は、職員の資質向上と経験の共有を図るため計8回行いました。

日 時 ・ 場 所		参加人数
テーマ	講 師	
2017.9.8 新館2階会議室		16名
インターンシップ成果報告会	西彩香(知識情報・図書館学類3年)	
2017.9.15 集会室		17名
長期研修 参加報告会・企画発表会	木村千絵(医学図書館担当)、嶋田晋(デジタルライブラリ担当)	
2017.10.18 集会室		31名
第1回コアスタッフ勉強会 「筑波大学附属図書館の未来を語ろう」	岡部幸祐(学術情報部長)	
2017.12.13 集会室		21名
図書館総合展 参加報告会1	中原由美子(リポジトリ担当)、松野渉(レファレンス担当)、 田村香代子(体芸図書館担当)	
2017.12.15 集会室		18名
図書館総合展 参加報告会2	大和田康代(電子リソース担当)、渡邊朋子(ラーニングサポート担当)、 飯塚桂子(出版会担当)	
2018.1.30 集会室		32名
第2回コアスタッフ勉強会 「NACSIS-CATの軽量化・合理化について」	三角太郎(アカデミックサポート課長)	
2018.2.27 集会室		30名
平成29年度附属図書館研究開発室 研究成果報告会	研究開発室室員および協力者	
2018.3.22 新館2階会議室		22名
海外派遣報告会 IDCC出張報告	松野渉(レファレンス担当)	

6 トピックス

1. サービス・活動

日 付	内 容
2017.4.1	附属図書館プロモーションビデオ「Life with Library」を公開 (医学図書館) 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス専用端末を設置 (医学図書館) 休業期間中の開館時間延長試行を継続 (医学類の授業が休業期間にかかる期間にも実施されていることから、学期中と同じ時間で開館) 筑波キャンパス内の図書の取り寄せサービスを正式運用開始 (中央図書館) 学生サポートデスクの予約制を正式運用開始
2017.4.3	障害のある利用者への資料電子化サービスの試行開始
2017.6.24/7.23	クラウドファンディングプロジェクトへの寄附者を対象に中央図書館見学ツアー及び貴重書内覧会を実施
2017.8.11	(体芸・図情図書館) オープンキャンパスの開催に合わせて臨時閉館
2017.8.23~8.25	(中央図書館) 茨城県知事選挙において、集会室に期日前投票所を設置
2017.9.22	(体芸図書館) 石井コレクションの附属図書館での常設展示を開始
2017.9.29	筑波大学出版会 10 周年記念シンポジウムを開催
2017.10.2	(中央図書館) 1A 棟耐震改修工事 (2017 年 10 月から 2018 年 7 月末 (予定)) に伴い スチューデント・コモنزを本館 2 階キャリアゾーンに移設 (グローバル・コモنز機構)
2017.10.23	台風 21 号接近のため 9:30 まで臨時閉館 (大塚図書館は通常開館)
2017.11.1	本学教員の文献複写等に係る料金の全学共通経費化 (試行) を開始
2017.11.15	(中央図書館) 本館 2 階ラーニング・スクエアに「つばやきポスト」を設置 (筑波大学ピアサポートチーム)
2018.1	附属図書館研究開発プロジェクト「理科系英文インターネットジャーナルの検討」(研究代表者: 後藤博正 (数理工学系)) にて刊行の『Futurum - Tsukuba Science Journal』を公開開始
2018.1.11	2019 年度以降の電子ジャーナル等の整備方針、整備対象資料決定
2018.1.22	大雪警報発令のため筑波キャンパスの図書館は 19:00、大塚図書館は 16:30 に臨時閉館
2018.2.23	「筑波大学オープンアクセス方針実施要領」を制定
2018.2.27	附属図書館研究開発室 研究成果報告会を開催
2018.3	Early English Books Online (EEBO) を導入
2018.3.18	筑波大学出版会 10 周年記念本『サイバニクスが拓く未来—テクノピアサポートの時代を生きる 君たちへー』(山海嘉之著) 出版記念講演会を開催

2. イベント・セミナー・授業

日 付	内 容	場 所
2017.4.26	春休みに海外に行ってきた人々たちによる海外体験報告会 (国際総合学類学生)	チャットフレームC
2017.4.26~2018.3.28	ソクラテス・サンパ・カフェ (主催: 筑波大学哲学カフェ) *第 4 水曜日に計 10 回開催	チャットフレームB
2017.6.6/6.13	大学院共通科目「テクニカルコミュニケーション」 (担当教員: 野村港二 (教育イニシアティブ機構))	チャットフレームC
2017.6.6/6.13/6.20	共通科目「国語I」 (対象: 生物資源学類 3 班 担当教員: 勝田光 (人間系))	チャットフレームA
2017.6.22	つくば院生ネットワーク活動紹介・デモプレゼン会 (主催: つくば院生ネットワーク)	エントランス
2017.7.3/12.6/2018.2.16	おりがみ講習会: Origami Workshop	チャットフレームC
2017.7.7/7.21	「地球学基礎セミナー A」 (担当教員: 山下亜紀郎 (生命環境系))	チャットフレームA、B、 コミュニケーションルーム
2017.7.20	つくば院生ネットワーク活動紹介・デモプレゼン会 (主催: つくば院生ネットワーク)	エントランス
2017.7.28	総合日本語科目「プロジェクトワーク日本語」 (担当教員: 関口美緒 (グローバルコミュニケーション教育センター))	チャットフレームC
2017.8.2	最高スライドバトル - ゼロから始めるスライド作り - (主催: T-ACT「最高プレゼンライブ」)	図書館情報学図書館 ラーニングコモنز
2017.10.2~12.18	大学院共通科目「ザ・プレゼンテーション」全 10 回 (担当教員: 野村港二 (教育イニシアティブ機構))	チャットフレームC
2017.10.3	つくば院生ネットワーク活動紹介・デモプレゼン会・ 学生プレゼンバトル告知 (主催: つくば院生ネットワーク)	エントランス

日 付	内 容	場 所
2017.10.3～2018.1.30	Cosmos Café (主催：グローバル・コモンズ機構) *毎週火曜日に計 14 回実施	チャットフレームB
2017.10.3～12.19	共通科目「国語I」全 10 回 対象：生物資源学類 4 班 担当教員：勝田光 (人間系)	チャットフレームA
2017.10.17	全国大学ビブリオバトル 2017 茨城地区予選会 (筑波大学会場)	チャットフレームC
2017.10.18～10.20	学生プレゼンバトル 2017 予選 (主催：つくば院生ネットワーク)	チャットフレームC
2017.10.19～2018.1.25	GC Chat in English (主催：グローバル・コモンズ機構) *毎週木曜日に計 10 回実施	チャットフレームB
2017.10.20～2018.1.26	GC Chat in Japanese (主催：グローバル・コモンズ機構) *毎週金曜日に計 10 回実施	チャットフレームB
2017.10.23	理系学生を対象とした就活イベント (応用理工学類学生)	チャットフレームC
2017.10.28	[特別講演会] 江戸の遊び心 (綿抜豊昭 (知的コミュニティ基盤研究センター長/図書館情報メディア系))	集会室
2017.11.4/11.5	近未来図書館小劇場 (図書館情報メディア系宇陀・松村研究室との共催)	集会室
2017.11.18	[講演会] 筑波山と文学 -和歌・連歌など- (綿抜豊昭 (知的コミュニティ基盤研究センター長/図書館情報メディア系))	春日エリア情報メディア ユニオン1階講義室
2017.11.22	筑波模擬国連帰国報告会 (主催：社会・国際学群全米模擬国連大会派遣団)	チャットフレームC
2018.1.18/1.25	学振特別研究員 応募支援セミナー (主催：URA 研究戦略推進室)	チャットフレームC
2018.1.23	講演会「マンガ×学びの最前線」 (主催：筑波大学人文社会系文芸・言語専攻 吉原ゆかり)	チャットフレームC
2018.2.6	Block chain ミートアップ 第 1 回 (社会工学類学生)	チャットフレームC
2018.2.19	2017 BEST FACULTY MEMBER 表彰式 学内中継 (企画評価室)	チャットフレームC

※「5.オリエンテーション・講習会」に掲載のものは除きます。場所は、特記したもの以外は中央図書館での開催です。

3.展示

日 付	内 容
中央図書館 展示	
2017.4.7～4.28	WorldFut TSUKUBA グラウンド完成 (主催：WorldFut TSUKUBA)
2017.4.10～4.21	筑波大学写真部 新入生歓迎写真展 (主催：筑波大学写真部)
2017.4.24～5.19	各校における研究の取り組み～平成 28 年度筑波大学附属学校の活動～ (主催：附属学校教育局)
2017.5.11～6.5	INNOVATION WORLD FESTA 2017 (筑波大学主催) PR 展示
2017.5.19～5.26	筑波大学写真部 新人展 (主催：筑波大学写真部)
2017.6.19～9.29	クラウドファンディングプロジェクト購入図書ミニ展示
2017.7.12～7.28	研究不正防止キャンペーン展示「Stop! 不正行為 あなたは大丈夫?」 (研究推進部研究企画課、財務部財務制度企画課との共催)
2017.7.18～7.21	中国文化ウィーク (筑波大学中国留学生学友会主催) の宣伝展示
2017.8.11～9.11	みんなが選ぶ、文芸賞ベストセレクション (主催：筑波学生文芸賞運営委員会)
2017.9.15～9.29	ブラジル紹介資料フェア (ブラジルウィーク)
2017.9.19～10.6	筑波大学出版会設立 10 周年ポスター展
2017.10.10～11.19	平成 29 年度附属図書館特別展「江戸の遊び心ー歌川国貞の描く源氏物語の世界ー」 (主催：筑波大学附属図書館/図書館情報メディア系)
2017.10.13～10.31	世界食糧デー月間に合わせて、発展途上国の食糧廃棄に関して調べたこと。 (主催：YouthEndingHunger 筑波)
2017.10.23～10.27	オープンアクセスおよびリポジトリに関するポスター展示 (Open Access Week 2017)
2017.10.30～11.13	近未来図書館小劇場 テーマ本棚
2017.11.3～11.30	学生団体 C4 の活動紹介、フリーペーパーの展示 (主催：学生団体 C4)
2017.11.24～12.20	WorldFut TSUKUBA 団体の活動紹介及びイベント紹介 (主催：WorldFut TSUKUBA)
2018.2.1～	貴重書展示室常設展「日本の出版文化」の小特集を「平家物語を愉しむ」に展示替え
2018.2.27～3.18	附属図書館研究開発室 研究成果報告会ポスター展示

6 トピックス

日 付	内 容
体育・芸術図書館 展示	
2017.4.12～5.2	アンチ・ドーピングとは何か? (共同主催: 渡部厚一 (体育系)、日本アンチ・ドーピング機構)
2017.5.22～7.24	マスキングテープで表現する幾何学模様の春 (人間総合科学研究科感性認知脳科学専攻学生、同芸術専攻学生)
2017.6.19～9.29	クラウドファンディングプロジェクト購入図書ミニ展示
2017.7.1～7.31	Languorous Summer - 時間の経過の可視化表現 (人間総合科学研究科芸術専攻学生)
2017.8.1～8.30	Adrift - 光の構成 (人間総合科学研究科芸術専攻学生)
2017.9.20～2018.4.30	マスキングテープで表現する秋の音階 (人間総合科学研究科感性認知脳科学専攻学生、同芸術専攻学生)
2017.11.1～12.3	第1回グラフィックシェイクスピアコンペティション傑作選 (主催: 吉原ゆかり (人文社会系))
医学図書館 展示	
2017.4.12～5.2	アンチ・ドーピングとは何か? (共同主催: 渡部厚一 (体育系)、日本アンチ・ドーピング機構)
2017.6.19～9.29	クラウドファンディングプロジェクト購入図書ミニ展示
2017.10.2～10.30	看護実習に役立つ本
図書館情報学図書館 展示	
2017.5.22～6.5	なつかし。。朝ドラの世界 ミニ展示
2017.6.18～7.3	百年前のベストセラー再現! ミニ展示
2017.6.23～9.29	クラウドファンディングプロジェクト購入図書ミニ展示
2017.7.10～8.31	和本板本書誌雑知: 夏休み特別企画展示 (知的コミュニティ基盤研究センター、図書館情報メディア系綿坂豊昭研究室共催)
2017.10.23～11.30	筑波山と文学 -和歌・連歌など- (図書館情報メディア系社会貢献事業「つくば観光振興のためのコンテンツ開発」、つくば市共催)
2017.12.25～2018.2.23	明治の錦絵にみる笑いと風物 第1期 (知的コミュニティ基盤研究センター、図書館情報メディア系綿坂豊昭研究室共催)
2018.3.19～4.27	明治の錦絵にみる笑いと風物 第2期 (知的コミュニティ基盤研究センター、図書館情報メディア系綿坂豊昭研究室共催)
大塚図書館 展示	
2017.6.20～9.29	クラウドファンディングプロジェクト購入図書ミニ展示

4.見学・来訪者

日 付	内 容
2017.4.10	東南アジア教育大臣機構 (SEAEMO SEN) 一行 10 名
2017.4.17	武漢市市長一行 7 名
2017.4.19	オハイオ州立大学教員 1 名
2017.5.15	インドネシア教育大学 学生および教員 40 名
2017.5.23	ボルドー大学職員 1 名
2017.5.25	台湾第一高等中学生および引率教員 64 名
2017.6.13	ロシア・アルメニア・スラブ大学代表団一行 3 名
2017.6.14	中国若手行政官一行 (JST) 23 名
2017.6.16	韓国国立釜山大学図書館長一行 4 名
2017.8.30	JST さくらサイエンスプラン中国行政官一行 16 名
2017.9.20	韓国国立特殊教育院 研究者 2 名
2017.10.10	台湾大学校友会一行 13 名
2017.10.24	ニューヨーク州立大学 留学交流担当者 2 名
2017.11.10	インドネシア教育大学教員一行 3 名
2017.11.21	ボルドー大学教員 3 名
2017.12.4	ラオス教育・スポーツ省局長一行 15 名
2017.12.6	ロシア協定大学の日本語学科教員・学生 14 名
2017.12.18	中国・北京市科学技術委員会一行 5 名
2017.12.19	台湾・国立台湾大学国際合作専員 1 名
2017.12.26	ウェイン州立大学図書館情報学教員等 1 名
2018.2.1	釜山大学インターンシップ学生 3 名
2018.2.13	アセアン諸国大学関係者一行 23 名

※全95件(8,378名)から抜粋したものです。

5.オリエンテーション・講習会

内 容	実施回数	参加者数
新入生オリエンテーション(学群生)	11回	846名
新入大学院生オリエンテーション(院生)	7回	404名
留学生オリエンテーション	10回	229名
新任教員オリエンテーション	2回	14名
職員オリエンテーション	1回	80名
図書館の本や雑誌の探し方講習会	1回	6名
論文の探し方講習会	37回	432名
自由テーマオリエンテーション	10回	165名
科目関連指導	71回	3,387名
(内訳) フレッシュマンセミナー(各学類等)	49回	2,375名
日本語・日本文化学類 フレッシュマンセミナー応用編	1回	50名
理療科教員養成施設向け論文の探し方講習会	1回	19名
リハビリテーションコース新入生向け講習会	1回	20名
授業「水文化学演習C」春学期1コマ分を担当	1回	20名
授業「国語Ⅲ」春学期2コマ分を担当	2回	149名
授業「看護学研究法」春学期2コマ分を担当	2回	34名
授業「看護学の探求」春学期1コマ分を担当	1回	86名
授業「基礎化学」春学期2コマ分を担当	2回	114名
授業「知の探検法」秋学期11コマ分を担当	11回	520名
その他	8回	185名

日 付	内 容	講 師	参加者数
ライティング支援連続セミナー			
2017.4.18	自分を守る『情報リテラシー』： 情報の山で迷わないために	逸村裕（図書館情報メディア系）	18名
2017.6.14	疑うことから始めよう：批判的に読む （大学で身につけたい言葉の力）	島田康行（人文社会系・アドミッションセンター）	13名
2017.7.5	文書リテラシー (1) 小論文とレポートの違いはわかりますか？	三波千穂美（図書館情報メディア系）	8名
2017.7.12	(2) 伝わるための環境づくり		7名
2017.7.19	事実？意見？ (1) 理系レポートの核・図表を攻略しよう	野村港二（教育イニシアチブ機構）	4名
2017.7.26	(2) レポートの作法：「事実」と「意見」を区別しよう		6名
2017.10.4	伝えるためのことばのカタチ	田川拓海先生（人文社会系）	7名
2017.10.11	自分をオープンに伝えてみよう！： 本音で話して大丈夫な技術 ワークショップ (1)	五十嵐沙千子（人文社会系）	7名
2017.10.18	ワークショップ (2)		8名
LA(ラーニング・アドバイザー)セミナー			
2017.5.17	ラーニング・アドバイザーが伝える！ レポートの書き方セミナー	小山田建太、Novikova Natalia、 鈴木修斗（附属図書館ラーニング・アドバイザー）	38名
2017.7.26	ストレスフリーな卒論術 ～LAがすすめる！卒論前に読みたい文献～	金美京、鈴木修斗、 清水家齊（附属図書館ラーニング・アドバイザー）	8名
その他の研究・学習支援企画			
2017.10.24 ／10.26	博士論文インターネット公表の基礎知識	佐藤まみ子、中原由美子（リポジトリ担当）	61名 61名

6. 研修・シンポジウム

日 付	内 容
2017.7.3～7.14	平成 29 年度大学図書館職員長期研修 (受講生 30 名)
2017.7.31/8.2/8.4/11.8	職場体験 (つくば市内中学生 4 校 16 名)
2017.8.28～9.8	インターンシップ (筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類 1 名)
2018.2.1	インターンシップ (釜山大学校 文献情報学科 3 名)

7. 会議

日 付	内 容
2017.5.24/2018.3.26	附属図書館研究開発室運営会議
2017.6.2/7.19/8.10/9.19/11.14/2018.2.23	附属図書館運営委員会
2017.5.24/7.6/9.8/10.25/12.14/2018.3.7	附属図書館収書専門委員会
2017.6.27/12.18	附属図書館ボランティア専門委員会

8. 研究開発室

プロジェクト名	担当室員 / 協力者
1. 情報リテラシー教育における文献探索プログラムの開発と実践	宇陀則彦(図書館情報メディア系) / 渡邊朋子、守谷美佐子、佐藤まみ子、松野渉(附属図書館)
2. ラーニングコモンズにおける学習支援活動の検討	逸村裕(図書館情報メディア系)、島田康行(人文社会系・アドミッションセンター長)、野村港二(教育イニシアティブ機構) / 三波千穂美(図書館情報メディア系)、学習支援推進WG(附属図書館)
3. 情報探索行動の分析 図書館データを用いた利用者の行動分析	逸村裕(図書館情報メディア系) / 辻慶太、松村敦(図書館情報メディア系)、池内有為、榎本翔、小野永貴、坂本かなえ(図書館情報メディア研究科)、佐藤翔(同志社大学)、椎名智紀、大房叶(情報学群知識情報・図書館学類)
情報システムのログによる入館者の調査	佐藤聡(システム情報系・学術情報メディアセンター)、逸村裕(図書館情報メディア系) / 嶋田晋(附属図書館)
4. 図書館への応用可能性を探るクラウドソーシング実証実験	森嶋厚行(図書館情報メディア系)、宇陀則彦(図書館情報メディア系) / 池田光雪(千葉大学アカデミック・リンク・センター)、岩本英一(情報学群情報メディア創成学類)、利用者支援担当(附属図書館)
5. 附属図書館における貴重資料の保存と公開 附属図書館所蔵屏風の発ガス物質の除去 2	松井敏也(芸術系) / 永濱恵理子(附属図書館)、篠塚富士男(國學院大學 栃木短期大学)
附属図書館における貴重書・和装古書の公開と基礎的研究	山澤学(人文社会系)、谷口孝介(人文社会系) / 特別展WG(附属図書館)
6. 附属図書館の将来構想の検討	岡部幸祐(学術情報部)、谷口孝介(人文社会系)、逸村裕(図書館情報メディア系)、宇陀則彦(図書館情報メディア系) / 三角太郎、中村洋子、渡邊朋子、松野渉、田村香代子、奥村小百合、嶋田晋、石津朋之(附属図書館)
7. 理科系英文インターネットジャーナルの検討	後藤博正(数理物質系)、逸村裕(図書館情報メディア系) / Rafael Kiebooms(ヨーロッパ特許庁)、岡部幸祐、嶋田晋、平田完(附属図書館)
8. 図書のロバスト性評価法の確立	江前敏晴(生命環境系)、逸村裕(図書館情報メディア系) / 望月有希子(生命環境系)、大久保明美(附属図書館)
9. 知の集積と発信機能を強化した次期電子図書館システムの検討	高久雅生(図書館情報メディア系)、宇陀則彦(図書館情報メディア系)、岡部幸祐(学術情報部) / 嶋田晋、高橋雅一、真中孝行、平田完、木野村和人(附属図書館)
10. オープンサイエンス実現のための基礎調査	逸村裕(図書館情報メディア系) / 池内有為(図書館情報メディア研究科)
11. 図書館での音響効果調査	逸村裕(図書館情報メディア系) / 寺澤洋子(図書館情報メディア系)、伊川真以、社本和磨(図書館情報メディア研究科)
12. 屋内測位手法の開発	善甫啓一(システム情報系)、逸村裕(図書館情報メディア系) / 酒井紀志、進林昂太(システム情報工学研究科)、荒井大河(理工学群工学システム学類)
13. OPAC利用ログを用いた文献検索手法	高久雅生(図書館情報メディア系) / 小幡将司、吉川次郎(図書館情報メディア研究科)

メディアにみる 附属図書館



1.学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

日付	掲載元	メディア	掲載内容
2017.4.17	文教ニュース	雑誌	筑波大学附属図書館 プロモーションビデオ公開
2017.4.26	文教速報	雑誌	筑波大図書館がプロモーションビデオを制作
2017.7.31	文教速報	雑誌	大学図書館職員長期研修を開催
2017.8.4	朝日新聞	新聞	資金難の国立大 CF(クラウドファンディング)頼み ※当館のクラウドファンディングによる資金調達を紹介
2017.8.7	文教ニュース	雑誌	筑波大学 平成29年度 大学図書館職員長期研修
2017.9.5	読売新聞 [地域面]	新聞	県内代表 目指す戦い ―10月 初の予選会4大学で ※当館が会場となった「全国大学ビブリオバトル2017首都決戦」の予選会を紹介
2017.9.1	為櫻新聞(発行:茨城県立下妻第一高校新聞部)	新聞	現代で問われる大学図書館の役割とは ―筑波大学図書館情報学図書館 電子化の流れの中で
2017.10.2	筑波大学新聞	新聞	図書館の苦悩 電子ジャーナルの価格高騰
2017.11.6	文教ニュース	雑誌	筑波大学出版会 10周年記念シンポジウム
2017.11.8	文教速報	雑誌	筑波大出版会が10周年記念シンポ
2017.12.4	文教ニュース	雑誌	筑波大学附属図書館 特別展「歌川国貞の描く源氏物語の世界」
2017.12.8	文教速報	雑誌	筑波大図書館で「歌川国貞の描く源氏物語」展
2018.1.30	文部科学省「大学図書館における先進的な取組の実践例」	web	資料費確保を目標に掲げたクラウドファンディングプロジェクトへの取り組み

2.筑波大学附属図書館の刊行物

筑波大学附属図書館年報2016年度
筑波大学附属図書館研究開発室年次報告2016
平成29年度筑波大学附属図書館企画展 江戸の遊び心 ―歌川国貞の描く源氏物語の世界― (図録)
Prism (Practical Information for your Serendipity and Mind)
No.92 2017. 4. 3 取り寄せサービス、本格始動!!
No.93 2017. 5.11 中央図書館学生サポートデスク ラーニング・アドバイザー2017
No.94 2017. 7.19 ラーニング・アドバイザーが伝える!レポートの書き方セミナー
No.95 2017. 9.11 ストレスフリーな卒論術 ～LA がすすめる!卒論前に読みたい文献～
筑波大学附属図書館利用案内 University of Tsukuba Library Guide (和英併記)



3.筑波大学出版会の刊行物

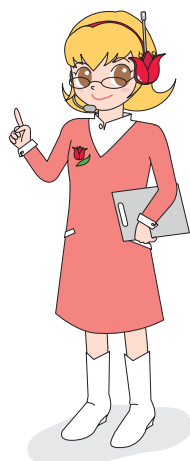
発行日	タイトル	著者
2017.9.30	サービスサイエンスの事記 (ことわけ): データサイエンスと数理科学の融合に向けて	高木英明 編著
2018.3.30	サイバニクスが拓く未来: テクノピアサポートの時代を生きる君たちへ	山海嘉之 著
2018.3.30	変貌する現代オーストラリアの都市社会	堤純 編著
2018.3.30	自然保護学入門:ひとと自然をつなぐ	筑波大学自然保護寄附講座 編

メディアにみる附属図書館

4.出版・放映・web上に掲載された所蔵・公開資料

日付	内容	資料種別	資料名	請求記号	資料ID	掲載書名等
2017.4.10	出版	貴重書	解体新書	サ200-6	10076713857	高等学校地理歴史科教科書「日本史 A」(東京書籍)
2018.2.28						『新選日本史 B (文部科学省検定教科書)』、教師用指導書 (東京書籍)
2017.6.8	出版	貴重書	算学啓蒙	コ200-11	10076713850 他	上野健爾『和算への誘い』(ブックレット〈書物をひらく〉7、平凡社)
2017.6.28	出版	和装古書	文部省発行錦繪：衣喰住之内家職幼繪解之圖等	ヘ950-宮196	10088015236 他	東京商工会議所 平成 30 年 経営歳時記 (カレンダー)
2017.7.7	出版	和装古書	大日本海岸全圖	ネ040-42	10076904317	蝦夷地の古地図展
2017.7.7	放映	和装古書	文部省発行教育錦絵	376-Mo31-6	10097603014	「名医とつながる!たけしの家庭の医学」(朝日放送)
2017.8.7	出版	和装古書	兒學教導單語之圖；五十音圖	ヘ950-宮203	10088015209	2020 年度文部科学省検定教科書『ともに学ぶ人間の歴史』(学び舎)
2017.8.7	出版	和装古書	男重寶記 (なんちやうほうき)	イ420-500	10076919965	橋爪伸子『地域名菓の誕生』(思文閣出版)
2017.12.21	出版	貴重書	ひそめ草 上中下	ル180-2	10076710407 10076710408 10076710409	『仮名草子集成』第 58 巻、第 59 巻 (東京堂出版)
2017.12.28	放映	貴重書	架鷹図 左隻	721.4-Ta82	10003015104	「歴史秘話ヒストリア」(NHK エンタープライズ、JAL 機内放送)
2018.1.22	出版	貴重書	Émile, ou De l'éducation	371.235-R76-1	10097308726	坂倉裕治 “ルソー『エミール』の初版本認定指標” (名古屋大学附属図書館研究年報 15 号)
2018.1.22	出版	貴重書	松梅院寺務由緒につき伝奏方へ差出書写」(北野社)	北野社	10003015451	石津裕之 “神社・門跡・社僧 近世宮寺としての北野社” (日本史研究 666 号)
2018.2.6	出版	和装古書	官板實測日本地圖 1-4	ネ040-652	10076904364 他	『別冊太陽 伊能忠敬』(平凡社)
2018.3.20	出版	貴重書	鯨絵 [15]	726.1-N47	100840019135	東京都教育庁『防災ノート～災害と社会』(平成 30 年版)

※全 37 件から抜粋したものです。



附属図書館キャラクター
ちゅーりっぷさん・がまじゃんぱー



8 附属図書館 ボランティアの活動

1. 2017 年度ボランティア構成

●男性：8 ●女性：42 計 50 名

＜年齢内訳＞

●30代：1 ●40代：3 ●50代：11

●60代：24 ●70代：10 ●80代：1

●新規活動者 7 名 ●更新活動者 43 名

2. 活動統計

1 総合案内

●ボランティアカウンター利用者数 1,096 人

(学内者：924 人 学外者：172 人)

●図書館見学案内 102 件 4,482 人

●対面朗読 123 時間

2 利用環境整備

●シェルフリーディング数 5,786 連

(中央図書館：5,721 連 体芸図書館：65 連)

●不明図書の発見 1 冊

●ラベル補修 676 冊

(中央図書館：669 冊 体芸図書館：7 冊)

●図書修理冊数 1,593 冊

(中央図書館：1,099 冊 体芸図書館：494 冊)

3 体芸図書館ポスター整理 284 枚

3. 年間行事

1 フォローアップ研修

●学内施設見学(国際統合睡眠医科学研究機構) 7 月
睡眠を巡る謎を解明することを目指す世界トップレベルの研究施設を見学しました。

●学外施設見学(千葉大学アカデミック・リンク・センター) 11 月



千葉大学アカデミック・リンク・センター見学

●ミニレクチャー 1 月

「業務紹介：研究成果の情報発信について」

①筑波大学出版会について(出版会担当 飯塚係長)

②つくばリポジトリについて(リポジトリ担当 中原係員)

2 ボランティア懇談会 11 月

3 ボランティア講演会 11 月

図書館情報学の対象世界：『二十四の瞳』(壺井栄著)を

題材として(大庭一郎 図書館情報メディア系 講師)

4 意見交換会

●利用環境整備意見交換会 10 月

4. 各種活動

1 見学案内

留学生を含む新入生、キャンパスツアーの高校生、協定大学の教職員・学生を含む海外からのお客様など様々な来館者にそれぞれに応じた見学案内を年間約 100 回行っています。

広報室のキャンパスツアー担当者からは、ツアー後の高校生アンケートでも中央図書館の見学が好評であると、活動の励みになるコメントをいただきました。



2 日本文化紹介

留学生に日本文化を紹介するための「おりがみ講習会」を 7 月、12 月、2 月の 3 回実施しました。12 月開催時には、来日中だったロシア協定大学の教員・学生や、語学留学を控えた日本人学生なども参加し、会話も楽しみながら和気あいあいとした雰囲気の会となりました。

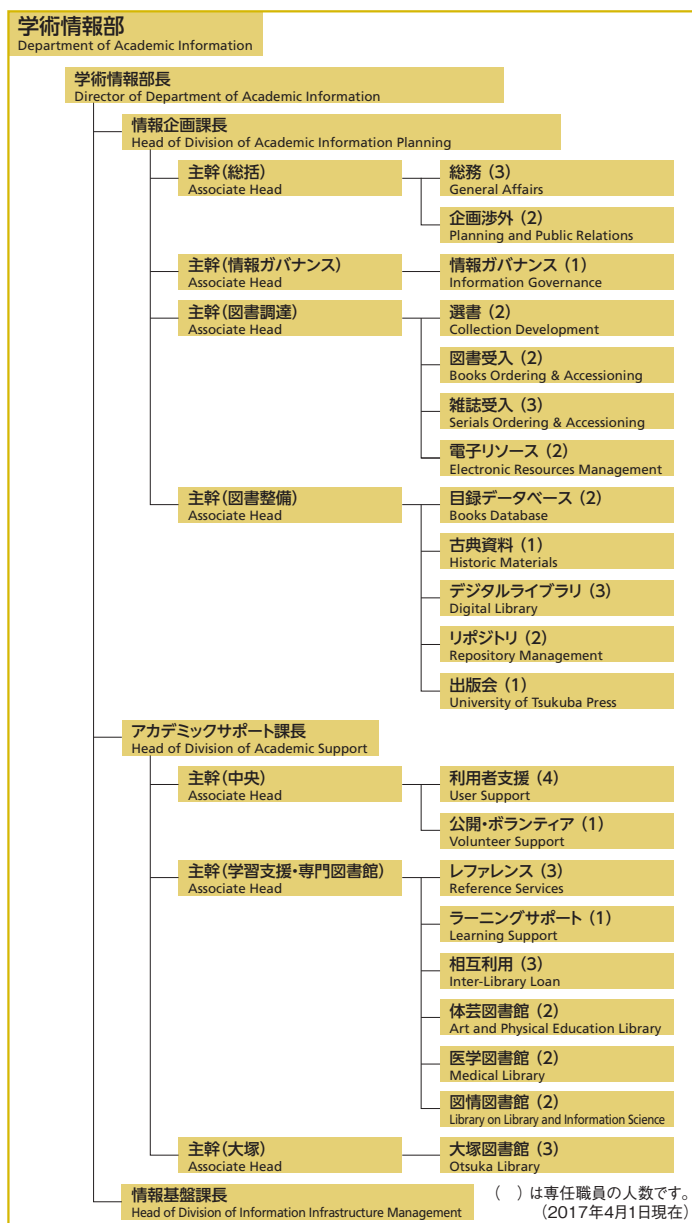
3 広報誌「うたがき」リニューアル

ボランティアの活動内容や状況を知らせるための広報誌「うたがき」は従来年 1 回発行でした。2016 年度に 1 年間かけて編集方針を見直したリニューアル版の「うたがき」を、2017 年度は当初の目標どおり年 2 回発行できました。

(公開・ボランティア係長 鴨志田 美由喜)

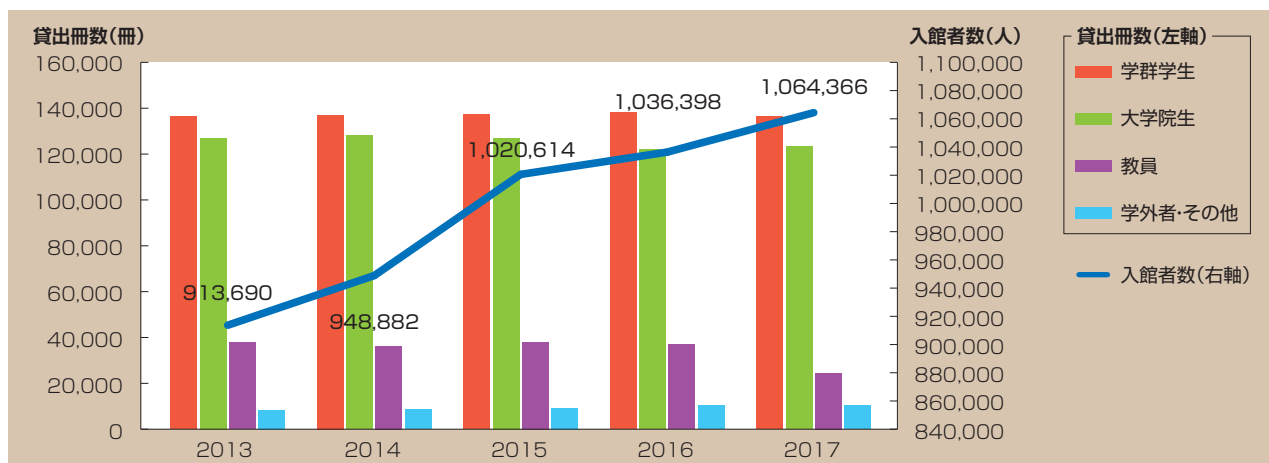
組織図・歴代図書館長

1. 組織図



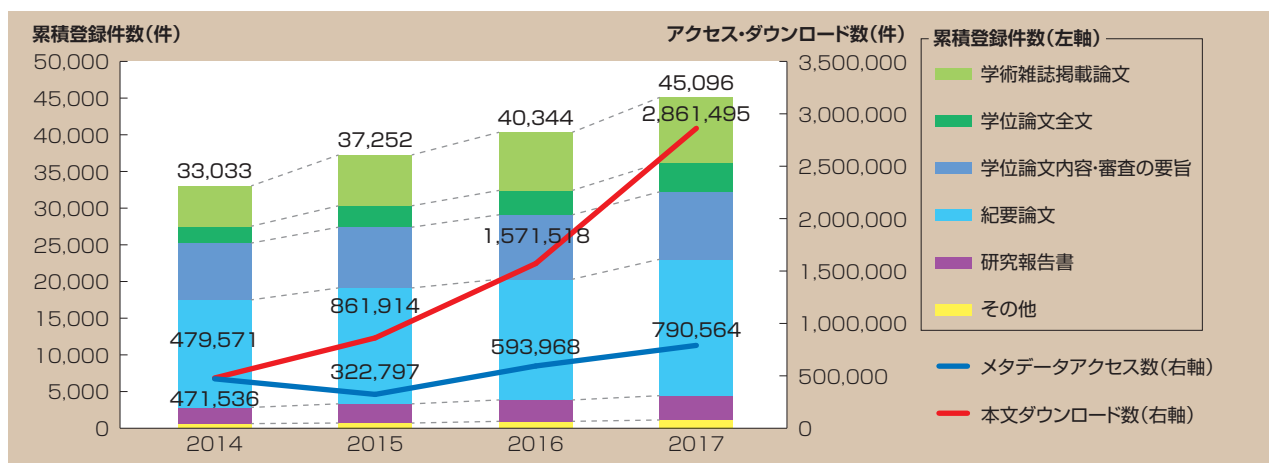
1. 推移と分析

利用サービスの推移



入館者数の前年からの増加率は2.7%で前年の増加率1.5%よりさらに増えており、中央図書館「ラーニングスクエア」、体育・芸術図書館「ユーリカ!」など、学生の学習の場としての利用の定着がうかがえます。貸出については、大学院生の貸出冊数は微増しているものの、教員は電子ジャーナルの利用が増加するなどにより減、冊数全体でわずかながら減となっています。今後も、筑波・大塚間に加えて2016年2月から試行し2017年4月に運用を開始した筑波キャンパス図書館間の図書取り寄せサービスにより、サービスの拡大を図りながら、利用者の利便性向上につなげてゆく予定です。

つくばリポジトリ 登録件数と利用の推移



「筑波大学オープンアクセス方針(2015年)」に対する学内の理解を一層深め、つくばリポジトリへの学術雑誌掲載論文の登録数を向上させることを目指し、2018年2月に「筑波大学オープンアクセス方針実施要領」を決定しました。つくばリポジトリの累積登録件数は毎年順調に伸びていますが、特に学術雑誌掲載論文は累積登録コンテンツ数全体の20%を占め、登録率の高さがうかがえます。また、2017年度は学内紀要の刊行状況調査を実施し、登録推進を図った結果、登録件数が約2,200件増(前年比13%増)となりました。登録件数の増加に伴い、リポジトリへのアクセス、ダウンロードを示す数値も順調に増加しており、登録された学術情報が有意義に活用されていることをうかがい知ることができます。

2.利用統計

		中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
年間開館日数 (日)	平日	239	239	239	247	247	—
	土・日・祝日	113	78	113	117	117	—
	合計	352	317	352	364	364	—
入館者数(人)	平日	535,486	95,932	134,361	55,538	53,651	874,968
	(学外者 内数)	23,434	1,656	4,311	3,098	20,561	53,060
	土・日・祝日	99,912	10,317	30,872	7,627	40,670	189,398
	(学外者 内数)	10,062	449	3,032	1,435	13,135	28,113
	合計	635,398	106,249	165,233	63,165	94,321	1,064,366
平均入館者数(人)	(学外者 内数)	33,496	2,105	7,343	4,533	33,696	81,173
	平日	2,241	401	562	225	217	—
	(学外者 内数)	98	7	18	13	83	—
	土・日・祝日	884	132	273	65	348	—
	(学外者 内数)	89	6	27	12	112	—
1日当たり	(学外者 内数)	1,805	335	469	174	259	—
	(学外者 内数)	95	7	21	12	93	—
貸出冊数(冊)	学群生	99,463	14,243	12,692	9,073	808	136,279
	院生	91,646	13,009	4,453	5,097	9,221	123,426
	教員	16,474	1,949	2,113	2,124	1,824	24,484
	学外者	5,679	566	527	885	1,853	9,510
	その他	885	30	0	2	0	917
	合計	214,147	29,797	19,785	17,181	13,706	294,616
	(学外者 内数)	33,496	2,105	7,343	4,533	33,696	81,173
貸出利用者数(人)	学群生	43,950	6,263	6,587	4,535	413	61,748
	院生	31,416	4,705	2,027	2,204	4,298	44,650
	教員	5,590	632	857	642	752	8,473
	学外者	2,646	269	272	471	849	4,507
	その他	22	5	0	2	0	29
	合計	83,624	11,874	9,743	7,854	6,312	119,407
	(学外者 内数)	33,496	2,105	7,343	4,533	33,696	81,173
文献複写(コピー) (件)	学外依頼	4,061	575	2,396	616	2,065	9,713
	学外提供	1,879	171	510	99	133	2,792
	合計	5,940	746	2,906	715	2,198	12,505
相互貸借(図書) (件)	学外借受	1,200	81	13	62	303	1,659
	学外貸出	2,378	279	65	109	95	2,926
	合計	3,578	360	78	171	398	4,585
レファレンス件数(件)	学生	8,277	1,644	1,482	1,156	4,924	17,483
	教職員	2,918	239	2,199	204	1,146	6,706
	その他	1,286	77	91	167	1,282	2,903
	合計	12,481	1,960	3,772	1,527	7,352	27,092
	資料に関するもの	9,289	1,126	3,481	830	4,925	19,651
利用案内・指導 事実に関するもの	3,143	834	291	692	2,417	7,377	—
	49	0	0	5	10	64	—
	合計	12,481	1,960	3,772	1,527	7,352	27,092

webコンテンツアクセス数

webサイトアクセス件数	件
学内	419,427
学外	836,225
合計	1,255,652

つばりポジトリアクセス件数	件
メタデータアクセス数	790,564
本文ダウンロード数	2,861,495

主要な電子ジャーナルフルテキストアクセス件数	件
Cambridge Journals Online	6,689
JSTOR	37,006
Nature	176,969
Oxford Journals	61,212
ProQuest Central	101,313
Science	23,741
ScienceDirect	747,260
SpringerLink	134,833
Wiley Online Library	194,235

主要なデータベースアクセス件数(サーチ数)	件
Business Source Complete	6,839
InCites-Journal and Highly Cited Data*	17,318
Lexis Advance	2,513
Oxford English Dictionary	6,858
ProQuest Central	24,229
SciFinder**	108,775
Web of Science	150,697
医中誌Web	79,209

* Journal Citation Reportsより名称変更

** 2017年度から算出方法を変更

主要な電子ブックアクセス件数	件
Cambridge University Press	1,613
ProQuest Ebook Central	15,506
Maruzen eBook Library*	1,597
NetLibrary*	1,199
Springer	158,446
Wiley Online Library	2,219

* タイトルアクセス数(その他はセクションアクセス数)



3.基盤統計

施設環境

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
建物面積(m ²)	19,330	3,518	2,793	2,848	1,552	30,041
座席数(席)	1,138	371	338	252	131	2,230
利用者用PC台数(台)	163	70	76	38	25	372

(※2017年度末現在)

図 書

(冊)

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
年度受入 冊数	(和洋区分) 和書	10,333	3,574	1,435	1,698	18,176
	洋書	1,932	656	88	148	3,067
	合計	12,265	4,230	1,523	1,846	21,243
	(受入区分) 購入	7,497	1,577	1,323	866	12,140
	寄贈	3,673	2,386	155	832	7,398
	製本 その他	1,082 13	252 15	44 1	145 3	1,667 38
蔵書冊数	合計	12,265	4,230	1,523	1,846	21,243
	(和洋区分) 和書	1,112,934	198,126	92,357	181,762	1,637,602
	洋書	794,774	68,452	80,511	73,792	1,044,194
	合計	1,907,708	266,578	172,868	255,554	2,681,796

雑誌(冊子)

内 訳	年度受入タイトル数			所蔵 タイトル数
	購入	寄贈	計	
和雑誌	806	6,531	7,337	17,490
洋雑誌	468	1,039	1,507	12,874
合計	1,274	7,570	8,844	30,364

つくばリポジトリ 累積登録件数 (※2017年度末現在)

内 訳	件 数
学術雑誌掲載論文	8,928
学位論文全文	3,943
学位論文内容・審査の要旨	9,192
修士論文	214
紀要論文	18,593
研究報告書	3,314
会議発表資料	356
講義資料	97
研究業績目録	23
つくば3Eフォーラム	95
A-LIEP	64
その他(図書)	277
合計	45,096

電子ジャーナル契約タイトル数 (※有料契約のみ)

内 訳	タイトル数
Cambridge Journals Online	384
JSTOR	983
Nature	31
Oxford Journals	261
ProQuest Central	19,200
Science	1
ScienceDirect	2,445
SpringerLink	1,605
Wiley Online Library	1,408
その他	5,148
合計	31,466

提供データベース・検索ツール

●主要契約データベース

データベース名
Business Source Complete
CINAHL
D1-Law.com
InCites-Journal and Highly Cited Data*
Lexis Advance
Oxford English Dictionary
ProQuest Central
PsycINFO
SciFinder (Academic)
Web of Science
Westlaw Japan
医中誌Web
掲載II ビジュアル ジャパンナレッジLib

* Journal Citation Reportsより名称変更

●学外への公開・発信

公開・提供内容
SCPJ(学協会著作権ポリシーDB)
沖縄歴史文庫データベース
つくばサイエンスアクティビティ
つくばリポジトリ
展覧会ポスターデータベース
日本美術シソーラスデータベース(試験運用版)

電子ブック契約タイトル 累積数 (※2017年度末現在)

内 訳	タイトル数	
	和	洋
Cambridge University Press	—	1,669
ProQuest Ebook Central	—	526
Maruzen eBook Library	822	122
NetLibrary	490	1,027
Springer	—	23,636
Wiley Online Library	—	1,124
その他	13	3,664
合計	1,325	31,768

